

平成 25 年度いわて未来づくり機構活動方針（案）

I 活動方針

- 1 平成 25 年度は、機構の第 2 フェーズ（概ね H24～H26）の中間年であり、復興を加速する年でもあることから、機構としての復興に関する取組をさらに充実させるとともに、成果と実績をあげることに重点を置いて取り組む。
- 2 機構の活動内容の周知を図り事業の実効性を高めるため、引き続き積極的な情報発信を行う。

II 活動計画

1 機構及び各会員が取り組む県民運動（平成 24 年 7 月の共同宣言に基づいた取組）

(1) 震災復興に向けた活動の推進

県民総参加による復興への動きを推進し、復興を加速させていく。

- ① 復興支援ポータルサイト「いわて三陸 復興のかけ橋」を中心とした情報発信・マッチングの促進・連携体制の構築
- ② 経済同友会などと共に、人づくり・街づくり・産業づくりに取り組む「東北未来創造イニシアティブ」の推進
- ③ 復興教育をテーマとした新部会の創設と実効性のある取組の推進

(2) いわての復興の象徴であり希望あふれる未来の実現に向けた活動の推進

復興の象徴となる取組を後押しすることで、復興とその先の希望あふれる未来の実現を図る。

- ① 国際リニアコライダー（ILC）の東北誘致に向けた県民意識の盛り上げ、国内候補地決定後の研究施設とその周辺環境の整備など、受入体制の充実
- ② 2016 希望郷いわて国体の開催に向けた県民意識の盛り上げ、募金活動・協賛活動への協力や関連イベント等への積極的な参加
- ③ いわて三陸ジオパーク認定に向けた県民意識の醸成、ジオパークに関する周知啓発や三陸復興国立公園の指定と連動した復興・地域おこしの取組

2 具体の課題解決のための各部会の活動

各作業部会は、いわての復興と未来づくりに向け、緊急かつ重要な課題に対応するための目に見える活動を行い、**具体の成果を出していくことを強く意識**して当該成果をラウンドテーブル、会員及び県民にフィードバックする。

部会名【担当機関】	平成 25 年度の主な活動計画・目標等
東北未来創造イニシアティブ作業部会 【岩手銀行】	・人材育成道場の開設及び円滑な運営
産業復興作業部会 【岩手大学】	・H24 策定のアクションプランの推進 ・沿岸地域の企業訪問を行い、支援内容に関し要望調査を実施 ・コーディネータの連携体制の構築
医療福祉体制作業部会 【岩手県立大学】	・研究会の開催(月 1 ～ 2 回) ・講演会・研修会の開催 ・仮設住宅及び復興公営住宅等の孤立死、自殺の防止に係る取組体制の構築
かけ橋作業部会 【岩手県】	・マッチングの促進 ・復興関連情報の発信 ・復興支援ネットワークの強化
観光作業部会 【岩手県商工会議所連合会】	・ILC 誘致の実現 ・花巻空港の台湾定期便就航の実現 ・「あまちゃん」を利用した観光の推進
(仮称) 復興教育作業部会	・「いわての復興教育プログラム」の推進を支援

3 積極的な情報発信

機構の活動を積極的に発信することで、活動のより効果的な展開を図る。

- ① 会員団体の総会等を利用した団体構成員等に対する機構の取組内容の周知
- ② 機構だよりの充実（年 4 回の発行）、電子メール等を利用した会員向け情報提供（随時）の強化
- ③ 機構HP（岩手のイイモノ紹介など概ね隔月更新）による、一般向けの情報発信の強化
- ④ 会員、構成団体HPとの相互リンク等による、露出の拡大

Ⅲ スケジュール

主なスケジュール	概要（案）
<p>○第1回ラウンドテーブル 日時：6/24(月)14:30～15:30 会場：ホテルメトロポリタンNW 司会：(岩大)岩淵副学長</p> <p>○総会・交流会 日時：(総会)6/24(月)15:40～17:00 (交流会) 17:15～19:00 会場：ホテルメトロポリタンNW</p>	<ul style="list-style-type: none">・25年度の活動方針についての協議・新部会(復興教育)の設置についての協議・東北未来創造イニシアティブの進捗状況報告・24年度実績報告、25年度事業計画の審議・ILC誘致に係る経過報告、機構としての決議・講演
<p>○第2回ラウンドテーブル 日時：10月下旬 会場：岩手大学(仮) 司会：(県)中村部長</p>	<ul style="list-style-type: none">・具体の課題(国体・ILC・ジオパーク・ものづくりビジョンなど)に対するディスカッション・活動内容の確認、修整、追加等
<p>○第3回ラウンドテーブル 日時：1月下旬 会場：岩手銀行(仮) 司会：(岩銀)斎藤専務</p>	<ul style="list-style-type: none">・活動内容の確認、総括・次年度の活動に向けた提言

いわて未来づくり機構の推進体制について

設立の趣旨

- ・岩手県内で活動する組織の知恵と行動力を結集
- ・地域社会の総合的な発展に向けオール岩手で取組み具体的に実践

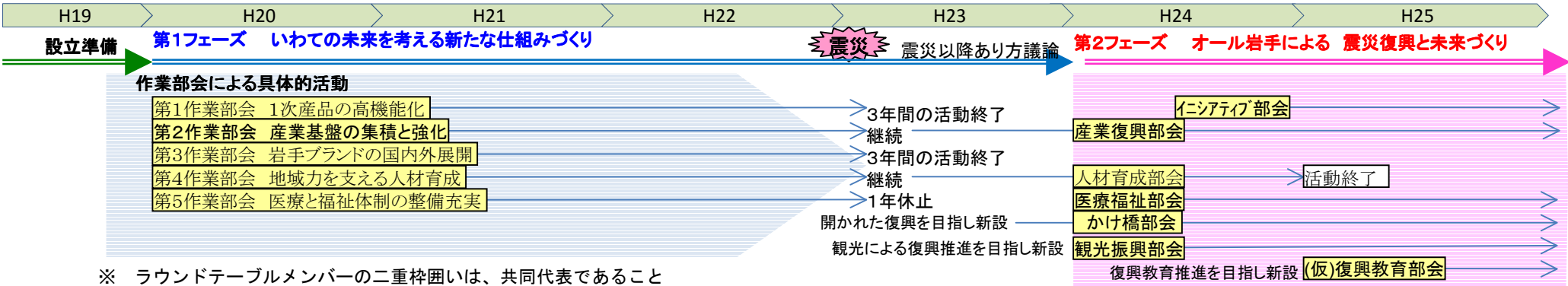
現状と課題

- 県内関係機関によるネットワーク構築(会員58団体)
- 部会活動を主体とした一定の成果
- ☆震災からの復興に向けた役割の変化
- ☆機構の位置付けや推進体制の見直し

目指す方向性

- ・機構の役割を再確認し、内外に発信(共同宣言など)
- ・各団体の動きを共有化し、オール岩手の取組を誘導
- ・各部会の方向性を明確にし、軸のブレない活動を実践

活動の経緯



推進体制	産			学		官
ラウンドテーブル	岩手経済同友会代表幹事 岩手銀行頭取 高橋真裕	岩手県商工会議所連合会 副会長 谷村邦久	大船渡商工会議所副会頭 米谷 春夫	岩手大学 学長 藤井克己	岩手県立大学 学長 中村慶久	岩手県 知事 達増拓也
企画委員会	専務取締役 斎藤雅博	専務理事 廣田淳		理事 岩淵明	副学長(地域連携担当) 柴田義孝	政策地域部長 中村一郎
事務局	執行役員総合企画部長 三浦茂樹	事務局次長 猿川毅		地域連携推進センター 副センター長 小野寺純治	地域連携室長 鈴木清也	政策推進室調整監 平野直
作業部会と 主な成果	第1作業部会(活動終了) ・GAP導入セミナー(H21) ・農商工連携セミナー(H22)	観光作業部会 ・講演会開催(H24)		第4作業部会(活動終了) ・人材シンポ開催(H21) ・高校生支援プログラム(H24)	医療福祉体制部会 ・地域会議の設立(H20) ・パイロットステイ実施(H24)	第3作業部会(活動終了) ・買うなら岩手のもの(H22) ・黄金の國フェア参加(H22)
	東北未来創造イニシアティブ 作業部会 ・H24開始			産業復興部会 ・企業説明見学会(H20～) ・部会員の活動HP掲載(H24)		かけ橋部会 ・かけ橋PJ(H23～) ・クールジャパン海外展開(H24)
				復興教育部会 ・H25開始		

平成 25 年度 いわて未来づくり機構

第 1 回ラウンドテーブル 資料

部会実績報告及び活動計画（案）

東北未来創造イニシアティブ作業部会	1 ページ
産業復興作業部会	3 ページ
医療福祉体制作業部会	7 ページ
かけ橋作業部会	15 ページ
観光作業部会	19 ページ

いわて未来づくり機構 **東北未来創造イニシアティブ作業部会**の
実績報告・活動計画 (25. 6. 24)

テーマ： 東北未来創造イニシアティブの運営

座長： 稲垣 秀悦

担当機関：(株)岩手銀行

【報告要旨】

- 東北未来創造イニシアティブ作業部会は、本県における東北未来創造イニシアティブの活動のコア事業である「人づくり」「街づくり」「産業づくり」による被災地復興に向けた支援事業を東京リエゾン・オフィスと連携しながら進める方針である。
- 今年度の目標は、実践行動型人材育成道場として、次代を担う地域事業家の底上げを図るべく「経営未来塾」、地域のロールモデルになり得る経営者を対象とした「エグゼクティブ・コーチング」、「自立・起業塾」の開設と運営、および釜石・大船渡地区の震災復興計画の具現化を、作業部会メンバーの人脈、情報を駆使し経済同友会からの出向者と協働して推進すること。
- 出すべき成果は、実践行動型人材育成道場「経営未来塾」において情熱と志、構想力、行動力を持つ地域のリーダーを育成するとともに、「自立・起業塾」を開設し起業家を育成することにより地域経済の活性化を図ること。

1. 活動（開催）実績等（前回 25. 2. 9 R T 以降の活動実績）

平成 25 年 4 月 事務局を(株)岩手銀行に置き、体制作りに着手
作業部会立上げ準備
平成 25 年 6 月 13 日（木）25 年度第 1 回部会開催

2. 活動（検討）内容（主な活動・議論）

- 事務局を(株)岩手銀行（地域サポート部）とし、東北未来創造イニシアティブの本県における本格展開のための態勢づくりに着手。

- 専担者（株岩手銀行地域サポート部所属）を釜石市に配置し、東京リエゾン・オフィスや自治体等の関係機関と連携し、実践行動型人材育成道場「経営未来塾」の立上げに向けた活動を開始。
- 平成 25 年 4 月にパイロット実施された気仙沼市の事例を参考として、本県における実践行動型人材育成道場「経営未来塾」の運営に向けた課題等について検討を行った。
- 釜石市、大船渡市、大槌町、陸前高田市等の地域関係機関と実践行動型人材育成道場「経営未来塾」の開設に向け打合せ実施。
- 6 月 13 日に第 1 回作業部会を開催し、メンバーの紹介、作業部会の事業内容、東北未来創造イニシアティブの活動を再確認。実践行動型人材育成道場「経営未来塾」の運営に係る今後のスケジュール確認と経済同友会出向者からの作業部会への協力要請内容の周知。

3. 平成 25 年度の活動計画

- (1) 今年度の目標・出すべき成果
 - ・実践行動型人材育成道場「経営未来塾」の開設および運営
 - ・公開フォーラム開催準備
 - ・「エクゼクティブ・コーチング」の開催
 - ・「自立・起業塾」の開設
 - ・震災復興計画の具現化
- (2) 活動計画
 - ・平成 25 年 7 月上旬 「経営未来塾」塾生公募開始
 - ・平成 25 年 8 月 25 日 「経営未来塾」開塾
 - ・平成 25 年下期 公開フォーラム開催
 - ・平成 25 年下期 「エクゼクティブ・コーチング」開催
 - ・平成 25 年下期 「自立・起業塾」開塾
 - ・平成 26 年 2 月 「経営未来塾」卒塾式
- (3) 震災復興計画の具現化については、釜石市、大船渡市と協議し具体的なスケジュールを確定していく。

いわて未来づくり機構 産業復興作業部会の
実績報告・活動計画 (25.6.24)

テーマ：産業基盤の集積と強化について

座長：井山俊郎

担当機関：岩手大学

【報告要旨】

●平成25年度第1回部会要旨

平成24年度の活動実績及び平成25年の活動計画、並びに活動に関する問題点と今後の対応について意見交換した。

出席者から出された主な問題点等

- ・地域によっては、有効求人倍率が1倍を超えているものの、がれき処理などの事業の単価が高いため、社員を募集しても集まらない。また、市外から来てもらうにも宿舎がない。
- ・グループ補助金(3/4補助)が決まっても、経営状態の悪い企業は金融機関から融資を受けられず、自己資金(1/4)を用意できず倒産するケースがある。
- ・補助金を受けて開業しても被災前と同じ事をしている(+αがない)。
- ・各組織に所属するコーディネーターがバラバラに動いており、企業訪問が重複し業務の支障となっているケースがある。コーディネーター問題は全体をコントロールする組織が必要。早急に体制を構築する必要がある。
- ・被災地では、技術開発や製品開発するためのビジョンを描けず被災前と同じ事をしているものづくり企業が多いという現状があり、今後、被災地のものづくり企業が将来に希望を抱けるようなビジョンの方向性などを、RTメンバーに議論してもらえれば、被災地の企業にとっても人々にとっても励みになるのではないか。

●今年度、産業復興作業部会として目指すべき目標、出すべき成果

【目指すべき目標】

①アクションプランの推進

沿岸被災地域のものづくり産業の復旧・復興支援のため、ものづくり産業支援に係るアクションプランを推進する。

※〔7つのアクションプラン〕

- a) 沿岸各地域におけるものづくり企業の被災状況、市町村とものづくり支援センターによる支援内容、今後の支援に対する要望に関する調査
- b) 各組織が行う復旧・復興支援内容のHP公開
- c) 復興事業・状況などに関する情報交換の場の設定支援
- d) 補助金申請支援
- e) 各地域の市町村や各地域のものづくり産業支援センターなどの活動支援
- f) 人材育成支援

g) 技術開発支援

②アクションプラン実施に関する情報交換

各組織が行うアクションプランに関する実施情報の交換を通じて、支援活動における問題点とそれらの解決策を審議する。

③コーディネーターの連携体制の構築

被災地域の産業復旧・復興支援に重要な役割を果たしている各組織所属のコーディネーターの個別活動の問題(重複訪問など)を解決するため、コーディネーターの連携体制を構築する。

【出すべき成果】

①アクションプランの推進

- ・沿岸被災地域のものづくり産業における人材の高度化、技術レベルの向上が期待できる。
- ・アクションプランに対する各組織の実施内容がホームページで一覧可能となり、被災企業による容易な支援情報取得が期待できる。
- ・各組織の将来の活動や計画に対し、沿岸被災地域の新たな要望の反映が期待できる。

②アクションプラン実施に関する情報交換

各組織の将来の活動や計画に対し、支援活動における問題点解決策の反映が期待できる。

③コーディネーターの連携体制の構築

コーディネーターの連携体制の構築により、各コーディネーターの所有情報の共有化、事案に対する適切な支援活動が可能となり、効率的な支援活動が期待できる。

1. 活動(開催)実績等(前回 25.2.9 R T 以降の活動実績)

平成 25 年 5 月 7 日 平成 25 年度第 1 回部会開催

2. 活動(検討)内容(主な活動・議論)

平成 25 年度第 1 回

(1)平成 24 年度の活動実績及び平成 25 年の活動計画について

各組織における平成 24 年度に実施した復興支援活動及び平成 25 年度に実施予定の活動計画について意見交換し、以下のような問題点が出された。

これまでの活動において浮上した主な問題点

- ・地域によっては、有効求人倍率が 1 倍を超えているものの、がれき処理などの事業の単価が高いため、社員を募集しても集まらない。また、市外から来てもらうにも宿舎がない。
- ・グループ補助金(3/4 補助)が決まっても、経営状態の悪い企業は金融機関から融資を受けられず、自己資金(1/4)を用意できず倒産するケースがある。

- ・補助金を受けて開業しても被災前と同じ事をしている（+αがない）。
- ・各組織に所属するコーディネーターがバラバラに動いており、企業訪問が重複し業務の支障となっているケースがある。

(2) 活動に関する問題点と今後の対応について

- ・被災地では、将来のビジョンを描けず被災前と同じ事をしているものづくり企業が多いという現状から、今後、被災地のものづくり企業が、例えば、技術開発や製品開発する場合の目指すべき方向に関して、将来に希望を抱けるようなものづくり産業のビジョンをRTメンバーから提言してもらえれば、被災地の企業にとっても人々にとっても励みになるのではないか。
- ・コーディネーター問題は全体をコントロールする組織が必要。早急に体制を構築する必要がある。

3. 平成 25 年度の活動計画

(1) 今年度の目標・出すべき成果

- ・アクションプランの推進。
- ・アクションプラン実施に関する情報交換。
- ・コーディネーターの連携体制の構築。
- ・沿岸被災地域のものづくり産業における人材の高度化、技術レベルの向上。
- ・被災企業による容易な支援情報取得。
- ・支援活動における問題点解決策の反映。
- ・コーディネーターの所有情報の共有化、事案に対する適切な支援活動。

(2) 活動計画

- ・作業部会のアクションプランを引き続き推進する。
- ・ものづくり産業の支援活動で明らかになった問題点について解決策を審議する。
- ・沿岸地域の被災企業を訪問し、支援内容に関し要望調査を行う。

いわて未来づくり機構 **医療福祉体制作業部会**の
実績報告・活動計画 (25. 6. 24)

テーマ：医療と福祉体制の整備

—見守りを核とした被災地の生活支援型コミュニティづくり—

座長： 小川晃子

担当機関：岩手県立大学

【報告要旨】

釜石市鶴住居等でモデルを構築してきた「ICTを活用した医療・福祉の連携による見守り」について、その社会技術の有効性を取りまとめるとともに、岩手県（政策地域部、保健福祉部、県土整備部、復興局等）及び沿岸市町村と協働して、仮設住宅及び災害復興公営住宅等の住民の孤立死・自殺を防ぎ、コミュニティを再構築するための実践的取り組み体制の構築を目標として進める。

プロジェクトは、岩手県立大学と日本遠隔医療学会・岩手医科大学の研究者が連携して取り組む。

1. 活動（開催）実績等（前回 25. 2. 9 R T 以降の活動実績）

(1) 研究会

2月19日・3月19日・4月18日・5月9日・5月12日 日本遠隔医療学会、岩手医科大学関係者との研究会

(2) 釜石市鶴住居におけるフィールドワーク

4月12日 サポートセンターにて生活支援連絡員との情報共有システム打ち合わせ

(3) 安否確認情報の共有化に関する打ち合わせ

2月21日・3月8日・3月22日・4月4日・4月26日・5月11日・5月21日・5月28日
釜石市仮設団地支援連絡員とサポートセンターの情報共有システムに関する(株)NTTドコモ復興支援チームとの検討会

2月14日 (株)ピープルとの交流促進システム開発検討

(4) 講演・研修会等

2月16日 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス 研究発表

「仮設住宅における ICT を活用した見守りとコミュニティづくりの効果—釜石市鶴住居における復興支援事例から」小川晃子（岩手県立大学）、鎌田博之（盛岡赤十字病院）、長谷川高志（群馬大学）

3月28日 岩手県立大学公開講座盛岡地区講座「震災復興支援 ICT を活用した医療・福祉連携」

5月21日 岩手県議会環境福祉委員会調査での講話「被災地における ICT を活用した医療・福祉連携—見守りとコミュニティ再構築」

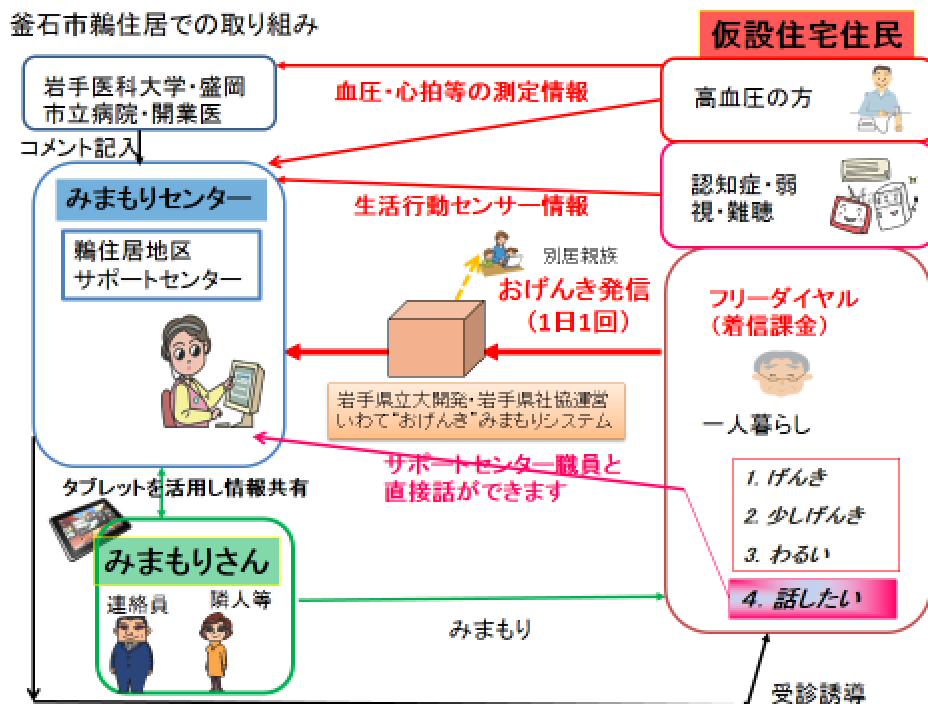
6月7日 いわて ICT フェア 2013 セミナー「被災地における ICT を活用した医療・福祉連携—見守りとコミュニティ再構築」

(5) 記事掲載

6月6日 DOGITAL GOVERNMENT (NTTDTA) 「高齢者の『みまもり』に ICT をどう活用するか」

2. 活動（検討）内容（主な活動・議論）

釜石市鶴住居等のフィールドで、仮設住宅団地におけるサポートセンターを見守りセンターとし、ICT（情報通信技術）を活用した複数のシステムを住民の特性にあわせて使い分け、安否情報を一元的に運用することで異変に確実に気づくとともに、生活支援を行うためのつながりが形成されることを明らかにした。



ICTを活用した見守りとしては、家庭用の電話機を利用し安価で普及できる「おげんき発信」を基盤として、難聴や認知レベルが低下した方には「電気使用によるセンサー」を、健康不安がある方には岩手医科大学が導入している「血圧測定伝送システム」を、使い分けた。

医療の見守りと福祉の見守りを連携することで受診が誘導されることが明らかになった。また、「おげんき発信」の「4. 話したい」ボタンを活用して買い物を発注するなど、生活支援策との連携が可能である。

このフィールドワークをもとに、医療・福祉の研究者で議論してきたことは、次の点である。

- ① 見守りセンター機能の整備
- ② ICTを活用した異変把握方法の使い分けと一元化について
- ③ 見守りからコミュニティづくりへの仕組みづくり
- ④ 見守りにおける医療・福祉の連携策
- ⑤ 見守り側の情報共有方策
- ⑥ 生活支援型サービスの開発と連携
- ⑦ 政策提言内容の検討
- ⑧ 普及方策の検討

3. 平成25年度の活動計画

(1) 今年度の目標・出すべき成果

- ① フィールドで検証した医療・福祉連携による見守りを核とした生活支援型コミュニティづく

りの有効性をまとめる

- ② 岩手県（政策地域部、保健福祉部、県土整備部、復興局等）に政策提言をする
- ③ 岩手県及び沿岸市町村と岩手県立大学が協働しこの社会技術を普及するための体制を提言
- ④ 仮設住宅及び災害復興公営住宅等の住民の孤立死・自殺を防ぐことにまずは焦点をあてた実践的取り組み体制の構築する

(2) 活動計画

- ① 研究会の開催（月1・2回）
- ② 岩手県関係部署への説明・打ち合わせ（5～6月）
- ③ 沿岸市町村への説明・打ち合わせ（6～7月）
- ④ 岩手県立大学地域政策研究センターにおける地域協働型研究プロジェクト等の外部資金の獲得と研究体制の構築（8～3月）
- ⑤ 講演会・研修会の開催（秋以降）

いわて未来づくり機構 **かけ橋作業部会**
の実績報告・活動計画 (25.6.24)

テーマ： いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクトの推進

座長： 平野 直

担当機関： 岩手県

【報告要旨】

平成 25 年度はプロジェクトの実施体制を強化し、ボランティア・支援団体等の減少に伴う復興支援体制の変化や震災復興に対する関心の低下などの社会環境等の変化を踏まえながら、次の取組みを進める。

- ① 復興支援のマッチング（地元の支援ニーズや県内外からの支援提案の把握とマッチングの促進）
- ② 復興関連情報の発信（県内外からの支援実績や復興の進捗状況、支援団体等の活動状況等）
- ③ 復興支援ネットワークの強化（県内外の団体や企業との連携体制の構築や団体間のコーディネート等）

また、事業の実施には機構会員の協力が不可欠であり、次の取組みを積極的にしていただきたいこと。

- ・ 復興支援のマッチングに関する情報提供
- ・ 会員が行う復興支援事業や復興関連イベント、マッチング実績等の情報発信

1. 活動（開催）実績等（前回 25.2.9 R T 以降の活動実績）

平成 25 年度体制スタート： ・ 作業部会事務局を岩手県立大学から岩手県（政策地域部）
平成 25 年 4 月 1 日 に移管。サテライト設置及びコーディネーター配置等を公益社団法人助けあいジャパンに委託。

サテライト開設：

- | | |
|------------------|-------------------|
| 平成 25 年 4 月 17 日 | ・ 陸前高田サテライト |
| 平成 25 年 4 月 26 日 | ・ 釜石サテライト |
| 平成 25 年 4 月 27 日 | ・ 盛岡事務所 |
| 平成 25 年 5 月 1 日 | ・ 久慈サテライト、宮古サテライト |

平成 25 年度第 1 回作業部会

- | | |
|------------------|---------------------|
| 平成 25 年 5 月 29 日 | ・ プロジェクトの取り組み内容について |
| | ・ 作業部会の役割について |

(通年実施)

- ・ 被災地の復興支援ニーズと県内外の支援者とをマッチングする「いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクト」を実施

2. 検討内容（主な議論）

(1) 平成 24 年度の活動実績

平成 23 年度の取り組みを継続することを基本として、次の取り組みを行うことで「いわて

三陸復興のかけ橋プロジェクト」の輪をさらに広げていくことを目指して活動を行った。

- ① ネットワークを強化し、支援ニーズの掘り起こしと、より上流工程での支援を目指す。
- ② 人材育成につながるワークショップを沿岸部の団体等と連携して開催する)
- ③ 復興に向けた地域づくりの動きを横展開できるように支援する

(2) いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト

平成 24 年度のマッチング実績等は以下のとおり。

マッチング実績（平成 23 年 12 月～）

（平成 25 年 5 月 30 日現在）

提案件数	提案件数	マッチング件数	受入先等
企画提案型	11	3	11
ニーズ型（要請）	75	38	54
ニーズ型（支援提案）	70	42	77
その他	2	-	-
計	158	83	142

※ 受入件数 マッチングした案件には複数の受入となる場合があり、その受入先を集計したものの。

(3) 平成 25 年度第 1 回作業部会

【議題】

- ・平成 25 年度のかけ橋プロジェクトの取組みについて
体制強化が図られたかけ橋プロジェクトの取組みについて意見交換
- ・作業部会の役割について
平成 24 年度までの取組みを踏まえ、平成 25 年度はさらにプロジェクトの実行に重点を置いた取組みを進めることとしており、作業部会の役割も大きく変わることから、作業部会のあり方や役割について意見交換

(4) 実施体制の強化

作業部会事務局を岩手県立大学から岩手県（政策地域部）に移管して県庁各部局との連携を強化するとともに、サテライト設置及びコーディネーター配置等を公益社団法人助けあいジャパンに委託。

名 称	人数	場 所
陸前高田サテライト	3 人	陸前高田市高田町字大隅 93-1 （一般社団法人 SAVE TAKATA 事務室内）
釜石サテライト	2 人	釜石市平田第 3 地割 75-1 （岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト内）
宮古サテライト	2 人	岩手県宮古市五月町 1 丁目 20 （岩手県宮古地区合同庁舎内）
久慈サテライト	1 人	岩手県久慈市八日町 1 丁目 1 （岩手県久慈地区合同庁舎内）
盛岡事務所	3 人	盛岡市本宮 5 丁目 10 しえあハート村 115 棟 C

3. 平成 25 年度の活動計画・方向性

(1) 今年度の目標・出すべき成果

ボランティア・支援団体等の減少に伴う復興支援体制の変化や震災復興に対する関心の低下、支援意思のある企業等に対するアプローチ不足などの社会環境等の変化を踏まえながら、次の取組みを進める。

- ① 復興支援のマッチング（地元の支援ニーズや県内外からの支援提案の把握とマッチングの促進）
- ② 復興関連情報の発信（県内外からの支援実績や復興の進捗状況、支援団体等の活動状況等）
- ③ 復興支援ネットワークの強化（県内外の団体や企業との連携体制の構築や団体間のコーディネート等）

(2) 会員への協力依頼事項

- ① 復興支援のマッチングに関する情報提供
 - 会員に寄せられた復興支援の要望や要請等（ニーズ）のうち、会員での対応が難しい案件
 - 会員に寄せられた支援提案のうち、会員での対応が難しい案件
- ② 会員が行う復興関連イベント、会員が関与した復興支援マッチング実績等についての情報提供
- ③ 本事業で配置しているサテライトのコーディネーターへの取材等への対応
- ④ 会員が行う復興支援事業等の本ポータルサイトへの掲載
- ⑤ 会員ホームページでの本事業の紹介やリンクの設定

なお、企画委員会構成会員及び復興支援を事業として実施している会員については、復興支援ポータルサイト「いわて三陸 復興のかけ橋」を活用した積極的な情報発信をお願いする。

いわて未来づくり機構 **観光作業部会**
の活動報告・活動計画 (25. 6. 24)

テーマ：岩手県の観光の推進について

座長：廣 田 淳 担当機関 岩手県商工会議所連合会

【報告要旨】

平成 24 年度は、岩手県の観光を推進するうえでの課題として 6 つの項目を検討した。

- ① コンベンション誘致活動と復興支援
- ② ポスト DC を見据えた観光振興
- ③ 観光マネジメント力の強化による地域資源の発掘と育成
- ④ 情報発信力の強化
- ⑤ 県北観光の振興
- ⑥ 国際観光の推進
 - (1) 国際リニアコライダー計画等の誘致活動
 - (2) 花巻空港の国際便就航

平成 25 年度は各団体が積極的に連携を取りながら、24 年度に引き続き、次の 4 項目に取り組んでいる。

① 国際リニアコライダー計画（ILC）の誘致活動

4 月 10 日～15 日にジュネーブ：CERN を視察。上野副知事をはじめ総勢 35 名が参加し、東北のアピールや国際学術研究都市形成に向けた受け入れ体制の整備について調査・研究を実施した。また、幕張インターナショナルスクールの視察や岩手県、東北 ILC 推進協議会と連携し、多くの講演会や決起大会、要望活動に取り組んだ。研究者の立地評価会議において、本年 7 月末頃までに国内候補地を一本化することであり、全力で誘致に取り組む。

② コンベンション活動

5 月 23 日～24 日に岩手経済同友会が「全国経済同友会セミナー」を開催。岩手県商工会議所連合会は、7 月 4 日～6 日に「全国商工会議所観光振興大会いわて大会 2013」～復興を推進する交流観光～をテーマとして開催するべく準備を進めている。

③ 花巻空港の国際便就航

4 月 21 日～25 日に実施された台湾への達増岩手県知事のトップセールスに商工会議所役員も民間の立場から参加し、台北との定期便就航の実現に取り組んだ。今後も、実現に向けた活動に積極的に参加する。

④ 県北観光の推進

“あまちゃん”を最大のチャンスと捉え、継続的な観光の推進に取り組む。

1. 開催実績等

平成 25 年 2 月 9 日 ラウンドテーブル以降の部会開催はなし。

2. 検討内容（主な議論）

なし。

3. 平成 25 年度の活動計画

(1) 今年度の目標・出すべき成果

① I L C 計画の誘致

研究者からは、本年 7 月末頃までに国内候補地を一本化することであり、岩手県、東北 ILC 推進協議会と連携して、全力で取り組む。

②コンベンション活動においては、予定されている大規模コンベンションにおいて、再び、岩手を訪れてもらえるよう工夫を凝らして開催する。

③花巻空港の国際便就航は、台湾との定期便就航実現に向けて取り組む。

④県北観光の推進については、“あまちゃん”を最大のチャンスと捉え、みやげ品開発等継続的な観光の推進に取り組む。

(2) 活動計画

① I L C 計画の誘致

英語版リーフレット、DVD を制作し、動画ウェブを活用して、世界への情報発信に取り組む。6 月 29 日には、公開講演会（県民集会）を開催するほか、高等学校での講演会や児童生徒を対象として「ILC 特別授業」を 6 月下旬から 7 月上旬に開催する。

②コンベンション活動

二つの大規模コンベンションの開催状況を検証して、新たなコンベンション誘致のあり方などを意見交換する。

③花巻空港の国際便就航

4 月 21 日～25 日に実施された台湾への達増岩手県知事のトップセールスに商工会議所も民間の立場から参加し、台北との定期便就航の実現に取り組んだ。今後も、実現に向けた活動に積極的に参加する。

④ 県北観光の推進

NHK 朝の連続 TV 小説“あまちゃん”は、大変な人気を博しており、これをチャンスと捉え、市内中心部商店街との連携、みやげ品の開発などに取り組んでいることから、県北への復興バスツアーなど積極的に支援する。

平成 25 年度の作業部会は、各団体が積極的に連携を取りながら、行動を展開する。全国商工会議所観光振興大会開催後に、年 2 回程度の部会を開催し、取り組み状況等を確認する。

いわて未来づくり機構 作業部会報告書

地域力を支える人材育成

平成 25 年 3 月

「地域力を支える人材育成」作業部会（第 4 作業部会）

目 次

1	目的・方針	1 頁
2	検討内容と実践	
	(1) 人材育成データベース	3 頁
	(2) 地方自治体と共同での人材育成プログラムの実施	4 頁
	(3) 「地域リーダー」像提言	5 頁
	(4) 自己実現支援プログラム	6 頁
3	提言	7 頁
参考	1 作業部会開催実績	8 頁
	2 作業部会メンバー	9 頁

1 目的・方針

本作業部会の活動の目的、方針を決めるにあたり、以下の前提を作業部会メンバー間で共通認識を持った。

- ・本作業部会は「安全・安心して暮らせる岩手を築くために、課題を整理し、長期スパンで検討」し、実践するための組織であり、審議機関ではない。
- ・人材育成は未来づくり機構（以下「機構」という。）所属機関等において既に行われているところではあるが、広く見直すことで、共通の課題を見出す。
- ・作業部会あるいは機構の枠組みの中で組織が結びつくことで、新たな人材育成の取り組みが期待される。
- ・人材育成は、短期的にその成果が発生するものではなく、長期的な視点に立って行っていく性格のものである。
- ・「地域力を支える人材」について、本作業部会では、単に「地域を支える人」という理解とする。
- ・地域力を支える人材育成を、現場（企業等）でどう理解し、行われているか、その実体をアンケート調査によって把握する。

そこで、本作業部会では、平成20年度に機構所属機関にアンケート調査の実施と結果の分析を行った。調査項目、対象及び結果等は以下のとおりである。

- 項 目：①会社、機関、団体等の概要について
②従業員（職員）に採用について
③人材育成について
④地域への貢献について
⑤「岩手県人らしさ」等について

調査対象：機構会員

- 調査方法：①調査年月日 平成22年2月
②配布数：100社（県下全域、各業種）
③回収数38社（回収率38%）

結果概要

- ①採用での学歴は、「学歴関係なし」と「大学卒以上」がほぼ同率で40%程度であり、就職希望者に日常業務に必要な資質・能力は、「コミュニケーション能力45%と一般知識・常識40%」である。
- ②就職希望者に期待する性格は、「積極性50%」「責任感45%」「協調性42%」であった。
- ③人材の確保では「非常に満足（5%）」、「ある程度満足（58%）」であり、「確保できていない」が37%である。なお、確保できていなくても「問題が起きていない」が11%、「採用後に人材育成をしている」が5%あり、「問題が生じている」は11%である。
- ④従業員の能力開発・人材育成は、55%が「積極的に」行い、「普通に行っている」と

するもの42%を加えると97%に達する。

- ⑤知識、技能向上対策の主なもの「内部で上司が日常業務で指導」79%、「外部の研修会や視察研修に参加」74%、「資格を取得した者に手当を支給」53%である。
- ⑥職務能力向上対策としては、「配置転換」47%、「プロジェクトへの参加」32%、「抜擢」32%である。
- ⑦地域のイベントや地域づくりへの参加は、「人材と資金の提供」、「知識や情報、ノウハウ等の提供」といった方法でそれぞれ3割強が参加し、地域発展のための社会貢献については、「知識や情報、ノウハウ等の提供」が40%で最も多く、次いで「地域の仕事の受託」26%である。
- ⑧地域力向上対策としては、「地域生活や地域経済に貢献」、「自ら経済・収益力の向上」、「地域づくりを協働して行う」、「連携して経済・収益力の向上」を4～5割があげている。
- ⑨地域力向上での必要な分野としては、「農林漁業」が84%で極めて多く、次いで「飲食店・宿泊業」42%、「製鉄・非金・金属」40%、「電気情報・精密機械」40%である。
- ⑩採用では岩手県出身者を40%が「重視する」、55%は「関係無し」であるが、岩手県人らしさとはあまり関係がみられない。

課題：概要は把握できたものの、調査数が少なく、詳細な分析は不可能である。

アンケート結果を踏まえ、平成21年度からは以下の方針で活動を行うこととした。

- ・活動方針を明確化するため、中・長期的な取組に加え、短期的な取組を行うこととする。
- ・中・長期的な取組として、県内の地域力向上のための人材育成プログラムを調査し、情報を公開してプログラム間のネットワーク化を図る。
- ・短期的な取組として、プレアンケートで地域力を高める上で期待度の高かった農林水産分野を重点的にフォローする。

しかし、東日本大震災により、機構の活動方針が「震災からの復興」に切り替わったことを受け、本作業部会でも平成24年度からは上記方針に加え、「復興に向けた人材育成」に向けた活動を行った。具体的には、これまでの活動に「震災復興」の視点を加えて活動を継続すると共に、機構会員やいわて高等教育コンソーシアムと連携した復興に向けた人材育成に取り組むこととした。

2 検討内容と実践

ここでは、本作業部会が活動を行った平成20年度から平成24年度の間でどのような検討をしたのか、また、検討結果に基づき実施した事業等について、以下のとおり報告する。

(1) 人材育成データベース

平成20年度に行った人材育成に関するアンケートを踏まえ、平成21年度には各組織が行う人材育成プログラムに関するアンケート調査の実施及び回答で得られた人材育成プログラムのデータベース化について検討した。この人材育成プログラムのデータベース化は、本作業部会の中・長期的活動と位置付け、人材育成データベースを構築し、インターネット上に公開した(別紙1)。

また、アンケート結果の報告と「地域力を支える人材育成」について広く市民とともに考えるために、平成22年3月にシンポジウムを開催した(別紙2)。シンポジウムではDABアグリ研究所所長・岩手大学名誉教授の木村伸男氏による基調講演、本作業部会座長の後藤より人材育成アンケート結果の報告と人材育成データベースの説明、また、「地域力を支える人材育成とは」と題して、紫波町経営支援部企画課共同支援室主事の高橋哲也氏、一関工業高等専門学校教授の明石尚之氏、和同産業株式会社執行役員環境事業部部長の林俊春氏、株式会社惣兵衛代表取締役の畠山さゆり氏をむかえてのパネルディスカッションを行い、自治体、企業、NPOから約100名が参加した。

平成22年度には、データベースの機能強化を図るため、8月に以下の機能を追加した。

- ・「医療」分野を「医療・福祉」分野に変更
- ・「起業・経営」分野、「教育・学術」分野、「教養・文化」分野を追加
- ・開催月、開催場所による検索を追加
- ・新着情報・トピックス欄にファイル添付機能を追加

また、このシステム更新に合わせて、未来づくり機構会員、県内自治体、JA、森林組合、NPO法人等に人材育成プログラムの実施状況等の調査を行い、その結果を基に人材育成データベースシステムへの新規データの登録を行った。

平成22年12月の本データベースに登録済みの人材育成プログラム数(内部研修を含む)は平成21年度分が392件、平成22年度分が562件の計954件であった。

平成23年度にはアンケート調査を7月に実施し(対象:機構会員、県内の地方自治体・商工会議所・農協・漁協・森林組合・NPO団体、計480機関・団体)、10月には過去にご回答いただいた機関に対し、ID等を付与し、各機関で本データベースに、直接、研修等の情報を登録できるようにデータベースの更新を行った。その結果、平成24年2月時点で、今年度実施の外部向け研修等が247件、内部向け研修等が119件、計366件の人材育成プログラムが登録された。

また、データベースに震災復興に関係した人材育成プログラムを、通常のカテゴリとは別に検索できる機能を追加し、震災復興関連プログラムとして外部向け12件、内部向け2件が登録された。

平成24年度は7月に関係機関の協力を得て、プログラム情報の更新を行い、280件

（平成25年1月現在、うち内部研修51件）のプログラムが登録され、うち9件が震災復興関連プログラムであった。平成24年1月から12月のデータベース訪問者数は1,041（うち国内は1,025）で、その7割は新規訪問者となっており、震災を契機に本データベースの活用が進んだものと考えている。

（2）地方自治体と共同での人材育成プログラムの実施

平成20年度に県内企業100社に行った人材育成に関するアンケートにおいて、農林漁業が地域力向上に必要な分野という結果が出たことから、久慈市、八幡平市における人材育成プログラムの実施を計画した。

久慈市では、市の担当者等との協議の結果、ミドルリーダー育成を目的に、市内企業の中堅職員が情報交換等をする場を提供する「K u j i C a f e」を実施することとなり、先行事例の紹介として、盛岡市、岩手大学地域連携推進センターの協力により「インテレクチャルカフェとは？ - M I U C a f e に学ぶ異分野交流 - 」と題して、普段、盛岡市産学官連携研究センター（コラボM I U ）で行われている「M I U C a f e」を平成22年6月28日にアイーナで実施した（別紙3）。地方自治体や本機構から40名ほどが参加し、海外や日本国内のインテレクチャルカフェの取り組みやM I U C a f e 運営に関するノウハウ等を学んだ。その後、平成23年3月にT P P や F T A をテーマにK u j i C a f e を開催する予定であったが、震災のため中止となった。

平成23年度は東日本大震災のため中止となった、K u j i C a f e を、平成23年11月28日に久慈グランドホテルで実施した（別紙4）。約30名が参加し、「再生可能エネルギーに着目した久慈地域の未利用資源の可能性」をテーマに、岩手大学名誉教授の馬場守先生、岩手大学農学部助教の伊藤幸男先生に話題提供いただき、参加者と意見交換を行った。馬場先生には太陽光発電に関する技術的な進化の過程や今後の見通しについて、伊藤先生には、木質バイオマスエネルギーに関する現状、県内での活用事例、また、木質バイオマス利用が地域経済に与える効果等について話題提供いただいた。また、意見交換では、地元林業関係者より一般家庭等でのペレットストーブ普及についての組織的な取り組みが必要との意見があった。

第2回は平成24年3月21日にやませ土風館において、外からの視点を取り入れた地域活性化をテーマに、岩手大学学生をゲストスピーカーに招き、開催した（別紙5）。約30名が参加し、久慈市での生活の質の向上に着目した住民主体の町づくり、若年層への観光のアプローチ、地域循環型の持続的な農業システム構築などの調査研究結果の報告の後、参加者による意見交換を行った。地域内での消費を念頭に置いた農業経営が持続的な農業に繋がる可能性があるため、農家と消費者を繋ぐコーディネーターを置く必要があるとの意見があった。

平成24年度は7月5日に久慈グランドホテルにおいて開催した（別紙6）。後述する「地域リーダー」像提言の活用を兼ねて、「地域リーダー像を考える」というテーマで、本作業部会から、話題提供者として座長の後藤尚人（岩手大学人文社会科学部教授）、作業部会メンバーの村田憲正（岩手経済同友会・株式会社エフエム岩手代表取締役社長）、

山口明（岩手ネットワークシステム事務局・岩手大学工学部准教授）が参加した。約20名の市民が参加し、座長及び作業部会メンバーによる話題提供の後、意見交換を行った。参加者から、地域の実状を交えながら担い手育成が大きな課題となっていることなどの意見が出され、地域リーダーの必要性和担い手育成の重要性を再認識する良い機会となった。

八幡平市では、市担当者等との協議の結果、学生による地域づくり活動を行うこととなり、実施主体を本作業部会からいわて高等教育コンソーシアムに移して行った。

本活動では、平成22年9月3～5日に八幡平市兄川地区で、いわて高等教育コンソーシアム構成大学学生14名（岩手大学5名、岩手県立大学4名、盛岡大学5名）が参加し、地域の公民館に宿泊しながら聞き取り調査や郷土料理体験等を通じて、地域住民との交流を図った。その後、聞き取り調査の結果に基づき、同年9月25日と10月2日に同地区内に掲示板と注意看板の設置を行った。

平成23年2月12、13日には地区住民と共に雪まつりを開催し、約50名の学生と地域住民で雪像やすべり台作りを行った。八幡平市での活動の様子はマスコミにも取り上げられた（別紙7）。

平成23年度はいわて高等教育コンソーシアム構成大学学生20名（岩手大学2名、岩手県立大学7名、盛岡大学9名、富士大学2名）が参加した。9月に合宿を行い、その後、地域の様々な魅力の発見と再確認、また、その発信を目的に「地域の魅力MAP」作りを行った。このMAP作りは次年度以降も継続することとした。

また、冬季の地域活性化の取り組みとして、2月11、12日に、現在は廃校となっている旧館市小学校グラウンドを会場に、雪まつりを開催した。今回は「絆」をテーマに、陸前高田にある「希望の灯り」の分火式や地域住民と共同での雪像作り、キャンドルナイトを行った（別紙8）。

平成24年度はいわて高等教育コンソーシアム構成大学学生13名が参加（岩手大4名、富士大2名、盛岡大7名）して活動を行った。今年度は地域をより深く知るために、7月には活動開始チラシの全戸配布実施や地域の祭り準備等に参加した後、9月に合宿を実施した。合宿では地域住民と共に、地域の課題の洗い出し、また、課題解決方策の検討を行い、合宿後の活動として、地域にある風穴を活用した住民交流推進策と雪上グラウンドゴルフ大会実施が採用された。風穴の活用に関しては、国道282号線沿いに風穴への案内看板を設置した。また、昨年度からの活動として「館市魅力MAP」完成に向けた作業を継続し、平成25年3月に3,000部を印刷し、八幡平市内等に配布した（別紙9）。

(3)「地域リーダー」像提言

いわて高等教育コンソーシアムから、リーダー育成に係るプログラムを立ち上げるため、本作業部会に対し、育成すべき「地域リーダー」の資質等に関する検討依頼が、平成22年6月にあり、それを受けて「地域リーダー」像について検討を行った。検討にあたり、県内各界のリーダー5名をゲストスピーカーに招き、これまでの活動内容、リーダーに必要な資質や若者に伝えたいことなどをお話いただき、意見交換を行った。平成23年7

月には、これまでの検討結果をまとめた提言をいわて高等教育コンソーシアムに提出した（別紙10）。なお、提言には当初想定していなかった復興の視点も加えた。

また提言の本作業部会での活用として、提言を広く地域に周知し、リーダー育成に役立ててもらうことを目的に、フォーラム等の開催を検討し、平成24年度に地域リーダーをテーマにK u j i C a f eを開催した。内容等については（2）で述べたとおりである。

（4）自己実現支援プログラム

復興を支える若手人材を育成し、被災地の復興を支援する事業として、平成24年8月から岩手県立山田高等学校、岩手大学釜石サテライトと共同で「高校生を対象とした自己実現支援プログラム『復興とともに歩む私たちの未来』」を山田高校2年生（76名）に対して実施した。実施にあたり、本作業部会メンバーの岩手県中小企業家同友会や関西で活動するNPO法人e d g e、岩手県教育委員会の協力を得て、山田高校に講師を派遣し、全10回の講演及びグループワークを実施し、高校生に自分の将来と山田町の復興を関連付けて考える機会を提供した（別紙11）。

プログラム実施中に行われた文化祭では、講演から学んだこと、山田町復興のために自分たちができること等をまとめ、グループ発表を行った。また、冬休み期間中の課題として、本プログラムで学んだこと等をまとめたレポートを提出させ、それを平成25年3月に冊子にした（別紙12）。

このプログラムで「復興は自分たちの力でするもの」という意識を持った生徒が多くおり、微力ではあるが、地域の復興を後押ししてきたのではないかと感じている。

3 提言

被災地は未だに復興への道を模索しているところではあるが、東日本大震災から2年が経ち、人々の被災地への関心は次第に薄れてきていることは否めず、今まさに地域力が試されている時と言えるだろう。

自己実現支援プログラム「復興とともに歩む私たちの未来」で作成した県立山田高校2年生（当時）のレポート集を見ると、『「大変ということは大きく変わるチャンス」という言葉が心に残った」と多くの生徒が記しており、「復興とは前と同じ町に戻すことではなく、前よりも良い町にすること」という言葉も多く見られた。

言葉が適切ではないかもしれないが、復興に取り組むことは、これまでに培った知識や経験を実践に移す最良の機会であり、震災前から人口減少等停滞気味であった地域を、大きく変えるチャンスと捉え復興に取り組む、という考えは、理解は得られるのではないかと思う。

被災地の住民の方々は、いつになるかわからない復興よりも、今日、明日の生活に思いを巡らせる毎日を送っていると思うが、日々の生活の積み重ねが将来に繋がると考えれば、復興した町の姿やその時の自分の生活について確固たるイメージを持ち、そのために今日何ができるか、明日何をすべきかを考えて生活することは、日々、復興に向けて進んでいることが実感でき、ハリのある毎日に繋がるのではないかと考える。

いわて未来づくり機構は、構造改革による経済や雇用の問題、少子化の進行や人口の県外流出などによる地域コミュニティの崩壊、地域経済の縮小などの危機的状況を打破するために自治体、産業界・経済界、学術・教育機関が相互の連携と協働を強化し、明るい地域の未来づくりのために活動することを目的に設立されたが、今は東日本大震災からの復興のため、被災地の抱える様々な課題を解決するために各作業部会が取り組んでいるところである。

しかし、目の前の課題を解決するだけでなく、将来、岩手県がどうあるべきかを、ラウンドテーブルメンバーや各作業部会、機構会員が共通理解を持って活動していくことが肝要であり、それなしには県民が将来に希望を抱くことができる活動はできないのではないだろうか。

「復興」という言葉にどんな色を付けるのか、つまり復興を具体的に定義し、岩手で「復興」と言えば皆が同じイメージを持つようにすることは、まさに「未来づくり」であり、そのための活動は「地域力を支える人材育成」であろう。岩手の産学官が集う「いわて未来づくり機構」にはそのような活動を今後期待したい。

【参考】

1 作業部会開催実績

第1回：平成20年6月19日	作業部会の活動の方向について
第2回：平成20年7月24日	地域力を支える人材育成の方向と方法について
第3回：平成20年8月27日	地域（力）を支える人材育成に関するアンケート調査の実施について
第4回：平成20年11月13日	地域（力）を支える人材育成に関するアンケート調査（案）について
平成20年11月末日	アンケート調査表の作成について（メール会議）
第5回：平成21年4月6日	地域力を支える人材育成に関するアンケート調査結果、今後の本作業部会について
第6回：平成21年8月24日	活動方針：プレアンケート結果の反映と本アンケートについて
第7回：平成21年11月24日	農林分野の人材育成、本アンケート（研修プログラム調査）案
第8回：平成21年12月14日	農業公社主催「新農業人フェア」の広報、本アンケート実施案
第9回：平成22年1月12日	アンケート中間報告とデータベース化について
第10回：平成22年2月23日	アンケート結果報告、データベース、シンポジウム案について
平成22年3月17日	岩手大学にて「地域力を支える人材育成」シンポジウム実施
第11回：平成22年4月27日	平成22年度活動計画の検討
第12回：平成22年5月31日	地方自治体が行う人材育成事業への支援策の検討ほか
第13回：平成22年6月28日	いわて高等教育コンソーシアムへの「地域リーダー像」提示方法の検討及び地方自治体が行う人材育成事業への支援ほか
第14回：平成22年8月2日	「地域リーダー像」勉強会と提言スケジュールの検討
第15回：平成22年8月30日	「地域リーダー像」勉強会及び人材育成データベース更新
第16回：平成22年9月30日	「地域リーダー像」勉強会及び八幡平市での人材育成事業
第17回：平成22年11月1日	「地域リーダー像」勉強会
第18回：平成22年12月13日	「地域リーダー像」勉強会及び作業部会実績報告の検討
第19回：平成23年1月21日	作業部会実績報告及び事業計画の検討及び「地域リーダー像」提言に係る検討
第20回：平成23年7月6日	今年度の活動計画と「地域リーダー像」提言について検討
第21回：平成23年11月16日	今年度の活動計画の具体化について検討
第22回：平成24年5月8日	昨年度活動実績と今年度活動計画について検討
第23回：平成25年4月30日	昨年度活動実績と本作業部会活動報告について検討

2 作業部会メンバー

機関名	所属名	職名	氏名	備考
社団法人岩手経済同友会	株式会社エフエム岩手	代表取締役社長	村田 憲正	H20-24
	株式会社久慈設計	代表取締役社長	久慈 竜也	H22-24
岩手県商工会議所連合会	盛岡商工会議所	事務局長	和井内信行	H20-23
国立大学法人岩手大学	理事（教育・学生担当）・副学長		玉 真之介	H20-22
	人文社会科学部	教授	後藤 尚人	H20-24 H21-24・座長
	教育学部	教授	塚野 弘明	H20-24
		教授	新妻 二男	H20-24
	工学部	教授	廣瀬 宏一	H20-24
農学部	教授	木村 伸男	H20・座長	
公立大学法人岩手県立大学		事務局長代理	久保 協一	H20
	研究・地域連携室	室長	宇部 眞一	H21-23
			鈴木 清也	H24
岩手医科大学	企画部企画課	企画課長	小野寺正二	H20-21
			高橋 真	H22-24
		係長	山中 和成	H20-23
			佐々木寛人	H24
盛岡大学		事務局長	山崎 知行	H20-24
富士大学	経済学部	教授	中村 良則	H20-22
		講師	堀 圭介	H23-24
一関工業高等専門学校	電気情報工学科	教授	豊田 計時	H20
		教授	明石 尚之	H21-24
岩手県	商工労働観光部商工企画室	主査	森田 竜平	H20-H21
			山里 善彦	H22
		主事	小野寺 学	H23
	商工労働観光部科学ものづくり課	主任主査	藤原由喜江	H24
		主査	鈴木 優	H20-21
			熊谷 郁夫	H22-24
(岩手県市長会)	盛岡市都市整備部	部長	藤島 裕久	H20-24
岩手ネットワークシステム	国立大学法人岩手大学工学部	教授	大石 好行	H20-21
		准教授	山口 明	H22-24
岩手県中小企業家同友会		常任理事 事務局長	菊田 哲	H21-24
社団法人岩手県農業公社	農業振興部	就農支援課長	松原 一彦	H21-23
			佐々木守人	H24
株式会社惣兵衛		代表取締役	畠山さゆり	H21-24

作業部会事務局

国立大学法人岩手大学	研究交流部	研究交流部長	中島 武幸	H20-23
			佐藤 貢	H24
	研究交流部研究協力課	研究協力課長	渡邊 慎一	H20-21
			松森 康夫	H22-23
			長代 健児	H24
	研究交流部研究協力課	主査（副課長）	鈴木 一寿	H20-22
			安藤 範夫	H23-24
		主査	濱田 秀樹	H20-21
			八重樫喜陽	H22-24

別紙 1 : 人材育成データベース

① トップページ

地域力を支える
岩手で、プロフェッショナルを目指す人と、人材育成プログラムを発信したい人の、集いの場
農業、工業、観光、医療、内部研修、その他、県内各分野の情報多数

iwate!

iwate Tomorrow Design Organization


トップページ | 検索ページ | サイトの使い方 | お問い合わせ

■ 人材育成データベースとは

いわて未来づくり機構の第4作業部会「地域力を支える人材育成」をテーマに、各種取組を行っております。その取組の一つとして、県内の各種機関で開催している研修プログラムを取りまとめた人材育成情報データベースを作成いたしました。この人材育成情報データベースは、例えば、

- 【研修の受講者】→ 各業種・各層が開催している研修プログラムの詳細の確認
- 【研修の主催者】→ 多様な研修プログラムの先行事例の確認と自プログラムの改善や強化

などに活用することができます。
データ内容の更新や扱う領域の拡大、関連プログラムのネットワーク化など、今後とも改善を続けていきますので、どうぞご利用下さい。



	外 部								外 部	内 部	総合 TOTAL
	農業分野	工業分野	観光分野	医療・福祉 分野	起業・経営 分野	教育・学術 分野	教養・文化 分野	その他の 分野	TOTAL	内部研修	
H22年度	31件	40件	7件	47件	50件	64件	49件	34件	322件	245件	567件
H23年度	1件	0件	0件	0件	1件	0件	0件	0件	2件	0件	2件
H24年度	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
TOTAL	32件	40件	7件	47件	51件	64件	49件	34件	324件	245件	569件

■ 新着情報・トピックス

■ 2010-12-03 「新農業人フェアいわて」開催のご案内

岩手県、(株)岩手県農業公社、岩手県農業会議の主催で平成23年1月8日(土)午前11時からアイーナ904会議室において農業を始めた1人の相談会「新農業人フェアいわて」が開催されます。詳細は添付ファイルをご覧ください。

添付ファイル: 23年1月8日新農業人フェア.pdf (270.61K)

■ 2010-11-24 「岩手県 岩手県農業公社主催による、岩手県農業会議主催の、いわて市農協連合会岩手県支部主催による、いわて市農業フェア」開催のご案内

■ 簡易検索

検索したいプログラムについての「条件」を指定し「検索」をクリックしてください。条件に合致したプログラムが表示されます。なおも指定・入力せずに、「検索」を押すと、データベースに登録されているすべてのデータが表示されます。

キーワードから探す

キーワード

AND OR

検索条件を指定する

年度:

分野:

開催月: ~ 未定を含む

開催市町村:


開催場所:

表示件数: 20 50 100 500

▶ 本年度分まで表示

地図から探す (H23年度5月以降の予定が表示されます)

地図の各市町村をクリックすると、市町村ごとに情報が表示されます。下の地域のリンクをクリックすると地域別に情報が表示されます。



■ 県北広域 ■ 盛岡広域 ■ 県南広域 ■ 沿岸広域

トップページ | 検索ページ | サイトの使い方 | お問い合わせ

Copyright (C) いわて未来づくり機構 All Rights Reserved.

- 11 -

② 「検索結果」画面



地域力を支える

人材育成 データベースシステム

若手で、プロフェッショナルを目指す人と、人材育成プログラムを発信したい人の、集いの場
農業、工業、観光、医療、内部研修、その他、県内各分野の情報多数

いわて未来づくり機構 Iwate Tomorrow Design Organization

[トップページ](#)
[検索ページ](#)
[サイトの使い方](#)
[お問い合わせ](#)

絞り込み検索

検索したいプログラムについての「条件」を指定し「検索」をクリックしてください。条件に合致したプログラムが表示されます。
 なにも指定・入力せずに、「検索」を押すと、データベースに登録されているすべてのデータが表示されます。
 キーワード、主催者、年度、分野、プログラム名、対象者、プログラム内容を指定できます。
 プログラム名などのテキスト入力欄については、名称の一部を入力しただけでも検索できます。

キーワード

主催者

分野

開催年度

開催市町村

プログラム名

対象者

AND
 OR

開催月 ~ 未定を含む

開催場所

プログラム内容

[▶ 本年度分をすべて表示](#)

検索結果

検索条件: 開催年度: H22年度

検索結果: 1 - 20 件 / 567 件 [すべての詳細を表示](#) / ページ

1
2
3
4
5
6
7
8
9
29
次 >

H22年度 (667)	H23年度 (2)	H24年度 (0)				
開催月	開催市町村	主催者	分野	研修プログラム名		
1	4月	盛岡市	岩手県保健福祉部	医療・福祉分野	介護保険関係①【認定】①認定調査員研修 ②介護認定審査会委員研修 ③主治医研修	詳細
2	4月	盛岡市	岩手県保健福祉部	医療・福祉分野	緩和ケア医師等研修 ①緩和ケア医師研修 ②保健医療福祉従事者研修	詳細
3	4月	盛岡市	岩手県出納局	内部研修	出納員研修	詳細
4	4月	盛岡市	岩手県企業局	内部研修	新任職員研修	詳細
5	4月	盛岡市	岩手県教育委員会事務局	内部研修	小中学校事務初任者研修会	詳細
6	4月	盛岡市	岩手県立図書館	教育・学術分野	新任図書館長等研修会	詳細
7	4月	盛岡市	岩手県商工会連合会	内部研修	新任商工会職員研修	詳細
8	4月	盛岡市	財団法人いわて産業振興センター	工業分野	工程改善研修会	詳細
9	4月	盛岡市	国立大学法人岩手大学	工業分野	岩手マイスター育成プログラム長期講習コース	詳細
10	4月	盛岡市	国立大学法人岩手大学	教育・学術分野	青少年のための対峙競技A	詳細
11	4月	盛岡市	国立大学法人岩手大学	教養・文化分野	英語と心のしくみ	詳細
12	4月	盛岡市	国立大学法人岩手大学	教養・文化分野	教養と実践の英語活用講座	詳細
13	4月	盛岡市	国立大学法人岩手大学	教養・文化分野	ドイン語中級講座	詳細
14	4月	盛岡市	公立大学法人岩手県立大学	内部研修	法人採用職員初任者研修	詳細
15	4月	盛岡市	岩手医科大学	内部研修	新採用職員研修	詳細
16	4月	盛岡市	岩手医科大学	内部研修	岩手医科大学緩和ケア医師研修会	詳細
17	4月	盛岡市	岩手県	内部研修	新採用職員研修(前期)	詳細
18	4月	盛岡市	岩手県	内部研修	新採用指導者研修	詳細
19	4月	宮古市	岩手県教育委員会事務局	内部研修	管内小・中学校研究主任研修会	詳細
20	4月	宮古市	岩手県教育委員会事務局	内部研修	初任事務担当者研修会	詳細

1
2
3
4
5
6
7
8
9
29
次 >

[トップページ](#) | [検索ページ](#) | [サイトの使い方](#) | [お問い合わせ](#)

Copyright (C) いわて未来づくり機構 All Rights Reserved.

③ 「詳細」表示

検索結果

検索結果: 1 - 20 件 / 89 件 すべての詳細を表示 20件 / ページ

< 前 1・2・3・4・5 次 >

H23年度	H22年度	H21年度			
			主催者▼	分野▼	研修プログラム名▼
1	岩手県地域振興部		内部研修		定住・交流サポーターズ研修 詳細
2	岩手県保健福祉部		医療分野		介護保険関係【介護予防】介護予防研修 ①運動器の機能向上 ②栄養、口腔、閉じこもり、認知症、うつ予防 詳細
<p>研修・プログラム内容: 介護予防事業(特定高齢者、一般高齢者を対象)の従事者が効果的な介護予防教室の開催など必要な知識、技術を習得することを目的とする。</p> <p>対象者: 市町村等の介護予防事業従事職員</p> <p>2010年度受講者: ① 40名 ② 100名</p> <p>開催回数/年: ① 2回(1回当たり2日) ② 1回(3日)</p> <p>次年度開催の有無: 有</p> <p>担当部署・連絡先: 保健福祉部長寿社会課 TEL: 019-629-5436 FAX: 019-629-5439 Email: AD0005@pref.iwate.jp</p>					
3	岩手県保健福祉部		医療分野		介護保険関係【介護予防支援】介護予防支援研修 詳細

いわて未来づくり機構 「地域力を支える人材育成」シンポジウム

「地域力を支える
人材育成とは」

日時
平成22年3月17日(水)
14:00～17:10
参加費無料
(当日参加も可)

会場
岩手大学総合教育研究
棟(教育系)1階・
北桐ホール
(旧教育学部1号館)

PROGRAM

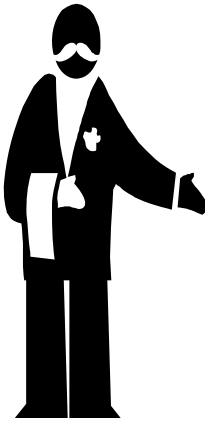
1. 受付(13:30～14:00)
 2. 開会のあいさつ(14:00～14:05)
いわて未来づくり機構共同代表
岩手県知事 達増 拓也
 3. 基調講演(14:05～15:05)
DABアグリ研究所長・岩手大学名誉教授 木村 伸男 氏
 4. 人材育成アンケート結果報告及び人材育成情報データベースの説明
(15:05～15:40)
いわて未来づくり機構第4作業部会座長
岩手大学大学教育総合センター教育評価・改善部門長 後藤 尚人
- 【休憩】
5. パネルディスカッション(15:50～17:10)
～地域力を支える人材育成とは～
(パネラー)
紫波町経営支援部企画課協働支援室 主事 高橋 哲也 氏
一関工業高等専門学校 教授 明石 尚之 氏
和同産業株式会社執行役員 環境事業部部长 林 俊春 氏
株式会社惣兵衛代表取締役 畠山 さゆり 氏
(コメンテータ)
DABアグリ研究所長 木村 伸男 氏
(モデレータ)
いわて未来づくり機構第4作業部会座長
岩手大学大学教育総合センター教育評価・改善部門長 後藤 尚人
 6. 閉会のあいさつ
いわて未来づくり機構共同代表
岩手大学長 藤井 克巳

【問い合わせ先】

岩手大学研究交流部研究協力課総括・研究協力グループ 濱田
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
TEL:019-621-6851 / FAX:019-621-6995
E-mail:kenkyou@iwate-u.ac.jp

主催:いわて未来づくり機構

MIU Cafe in アイーナ



インテリクチャルカフェとは？

— MIU Cafeに学ぶ
異分野交流 —

いわて未来づくり機構
「地域力を支える人材育成」作業部会 人材育成支援事業

日時：平成22年6月28日（月）15時～

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1

定員：40名

対象：県内地方自治体・県内企業・いわて未来づくり機構会員
その他一般市民

話題提供及びファシリテーター：

岩手大学地域連携推進センター 今井 潤 准教授

岩手大学地域連携推進センター 及川 隆 共同研究員

(盛岡市商工観光部企業立地雇用課主査)

主催：いわて未来づくり機構、岩手大学地域連携推進センター、盛岡市、岩手ネットワークシステム
岩手県中小企業家同友会・JSTイノベーションサテライト岩手

参加申込：6月21日（月）までに下記へ連絡願います
いわて未来づくり機構「地域力を支える人材育成」作業部会事務局
岩手大学研究交流部研究協力課 八重樫 喜陽

E-mail: mirai4@iwate-u.ac.jp FAX: 019-621-6995 TEL: 019-621-6851

Kuji Cafe

Kuji Cafeはテーマに対して、話題を提供し
皆さんで、勉強し意見交換をする場です。

～ 第1回 テーマ ～

再生可能エネルギーに着目した 久慈地域の未利用資源の可能性

日時:平成23年11月28日(月) 14:30-17:30

場所:久慈グランドホテル 7Fスカイホール

話題:「太陽光発電と環境エネルギー収穫の
未来を考えよう」

岩手大学 名誉教授 馬場 守 氏

「木質バイオマスエネルギー利用の展望」

岩手大学農学部 助教 伊藤 幸男 氏

参加費:500円(コーヒー、資料代として)

定員:30名(先着順)

交流会:Kuji Cafe終了後に希望者のみ
(会費4,000円)

申込先:久慈市総合政策部産業開発課(間峠)

電話:0194-52-2369 **FAX:**0194-52-3653

Kuji Cafe

Kuji Cafeはテーマに対して、話題を提供し
皆さんで、勉強し意見交換をする場です。

～ 第2回 テーマ ～

「よそ者・若者・馬鹿者」視点による 地域活性化

日時：平成24年3月21日(水) 18:00-20:00

場所：やませ土風館 1F 多目的ホール

話題：「住民主体のまちづくりを育む契機として～2地
域での事例を踏まえて～」

岩手大学大学院 農学研究科 1年

菊地 小百合 氏

「既存観光資源を活用した若年層へのアプロ
ーチ手法の検討」

岩手大学農学部 4年 小高 直人 氏

「有機農業と提携に基づく合自然的な農山村
地域像の検討～久慈市を対象地として～」

岩手大学大学院 農学研究科 2年

岸岡 健太 氏

参加費：無料

定員：50名(先着順)

交流会：Kuji Cafe終了後に希望者のみ(会費4,000円)

申込先：久慈市総合政策部産業開発課(間峠)

電話：0194-52-2369 FAX：0194-52-3653

主
共
後

主催：久慈市、いわて未来づくり機構

協賛：岩手大学地域連携推進センター

後援：岩手県北広域振興局、久慈商工会議所、(社)久慈青年会議所、久慈地域雇用創造
協議会、INS「海洋と社会」研究会久慈支部

Kuji Café 2012

Kuji Caféはテーマに対して、話題を提供し
皆さんで、勉強し意見交換をする場です。

～ 第1回 テーマ ～

「地域リーダー像を考える」

日時:平成24年7月5日(木) 18:00-20:00

場所:久慈グランドホテル 2階 平庭の間

話題:**今こそ求められる「地域リーダー」**

いわて未来づくり機構「地域力を支える人材育成」作業部会

座長・岩手大学人文社会学部 教授 後藤 尚人 氏

株式会社エフエム岩手 代表取締役社長 村田 憲正 氏

岩手ネットワークシステム(INS)事務局・

岩手大学工学部 准教授 山口 明 氏

参加費:無料

定員:30名(先着順)

交流会:Kuji Café終了後に希望者のみ(会費2,500円)

申込先:岩手大学地域連携推進センター

久慈市派遣共同研究員 小野

電話:019-621-6294 FAX:019-621-6892

e-mail:yono@iwate-u.ac.jp

(FAXの場合は裏面の申請書をご利用ください)

主
共

催:久慈市、いわて未来づくり機構
催:岩手大学地域連携推進センター



地域振興の

兄川地区の魅力に

八幡平市で3大学の学生

交流通じ対策提案

岩手県内、集落の魅力や課題探る
 岩手県内、集落の魅力や課題探る。大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。

岩手県内、集落の魅力や課題探る。大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。

2010年9月6日
 岩手日報13面

2010年9月26日
 岩手日報20面

兄川地区つなぐ看板製作
 3大学 振興策の一部実現
 八幡平市で川が地区内に立てる看板。八幡平市で川が地区内に立てる看板。八幡平市で川が地区内に立てる看板。



川地区行政連絡員の佐藤敏彦さん(57)は、学生との交流が活性化のきっかけになる。交流を続け、地域でも振興策を考えたい、と意気込む。学生は今年1月、2泊3日住民と交流を深めながら兄川地区の魅力や課題を、ユニークな地域振興策を提案していた。

2011年2月4日
 毎日新聞25面

若者の目で地域振興

岩手県内 集落の魅力や課題探る

大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。大学5校、岩手県内、集落の魅力や課題探る。

2010年9月4日
 日本農業新聞13面



学生がまちおこし

八幡平市区 兄川地区

岩手・県立・盛岡3大学の学生が共同で、高齢化が進む八幡平市区のまちおこしに取り組んでいる。大学横断な地域づくり事業の初め、企画した岩手大の5大学つなぐ会が、高専教育コンソーシアムは、新たな地域づくりモデルにすればと期待している。

10年春、八幡平市が1人が増えた。から「学生に地域振興策を考案してほしい」と、職員、人口約100人を要する。企画が、のち60歳以上がら動き始める。コンソーシアムの各大学が興味を持って学生を募集。9月、2泊3日の合宿で地元民に泊まり、対面の聞き取り調査を通して課題を明らかにし、解決策を考えた。その結果、一働かぬが、若者が離れてしまったため、自然を生かしたツアーや学生向け合宿を企画、誘致する。この合宿を企画、誘致する。この合宿を企画、誘致する。この合宿を企画、誘致する。

また今年12月、13日に、は隣校になった金田一連の校舎を、若者が集まる予定。同じのユニニケーションが、若者が集まる予定。同じのユニニケーションが、若者が集まる予定。同じのユニニケーションが、若者が集まる予定。

館市地区 雪で元気に

八幡平市 学生がまつり企画



学生と子どもたち、そり滑りを楽しみ、歓声を上げて

岩手大と県立大、盛岡大の学生が企画した雪まつりが12、13の両日、八幡平市館市の旧館市小校庭で開かれ、子どもたちの笑い声が響いた。まつりは、昨年9月

子どもたちと一緒に廃油で作ったキャンドルを「館市」の文字に並べた雪灯籠にともし、キャンドルナイトも楽しんだ。昼食は地域の女性で作った豚汁やおにぎり、漬物を囲んで、学生と住民が和やかに懇談した。まつりを企画した岩手大工学部2年の及川大智さんは「予想以上にみんな楽しんでくれた。住民が楽しい活動に参加し、活用しようと思う気持ちが大層。発信の分野でも力を入れたい」と話した。館市地区振興協議会の山本潤会長(61)は「雪は邪魔者だったが、冬も考えようで楽しむことが分かった。若い人の感覚が刺激になり、雪上パークゴルフなどいろいろな発想が生まれる」と喜んだ。

2011年2月15日

岩手日報 15面

大学間、地域連携の課題探る

いわて高等教育コンソーシアム 学生ら活動報告

県内5大学(岩手大、県立大、岩手医大、富山大学)の約150人が同コンソーシアムの事業の在り方や大学間や地域との連携の可能性を探った。同コンソーシアムは2008年10月に設立。本年度までの活動の振り返りとして、学生らが地域参加活動や国際交流事業の成果と課題を報告した。



地域参加活動の内容や成果を報告する学生

「八幡平市」について知り、発信することを発表。同市兄川地区とや人と人のつながりが大切だと実感した。5大学や学生同士、学生と地域の輪を広げていきたいとまとめた。5大学の学長の講演や意見交換も行われた。

2011年2月20日

岩手日報 24面

2011年2月17日
テレビ岩手「ニュースプラス1いわて」



館市地区の魅力探る

八幡平市で
県内大学生
活性化策を提言

第2回学生による地域づくり活動in八幡平市は19日までの3日間、同市館市地区で行われた。県内4大学の学生17人が合宿し、地域住民と交流しながら地域の魅力を調査。若い感性で活性化策を提案した。

岩手大、八幡平市、いわて未来づくり機構、いわて高等教育コンソーシアムの共催。岩手大、県立大、富士大、盛岡大の学生が参加した。学生は館市公民館に寝泊まりしながら、4班に分かれて炭焼きや、郷土芸能「先祓い」を見学。住民に聞き取りして地域の課題や魅力を把握した。班ごとにテーマを見つけた。19日は振興策を発



地域住民との交流を通じて考えた振興策を発表する学生たち

表した。リンドウ農家に住み、山菜採りや炭焼き、雪

「入」での職業体験や、

遊びなどを体験する子どものためのグリーン・ツーリズムツアーなどを提案した。昨年、館市地区の兄川集落に設置した地域情報を発信する掲示板は、人の目につきやすいごみ集積場付近に設置した方がいいなどの意見も出た。

「掲示板の課題なども分かった。もう一度設置したいし、ほかの提案についてもできることを一歩一歩実現させたい」と力を込めた。館市地区振興協議会の山本清会長(61)は「住民では気付かない新たな魅力の発見もあった。頂いた提言を一つでも実現できるよう頑張りたい」と意気込

2011年9月20日
岩手日報 19面

館市前進願いの希望の灯り

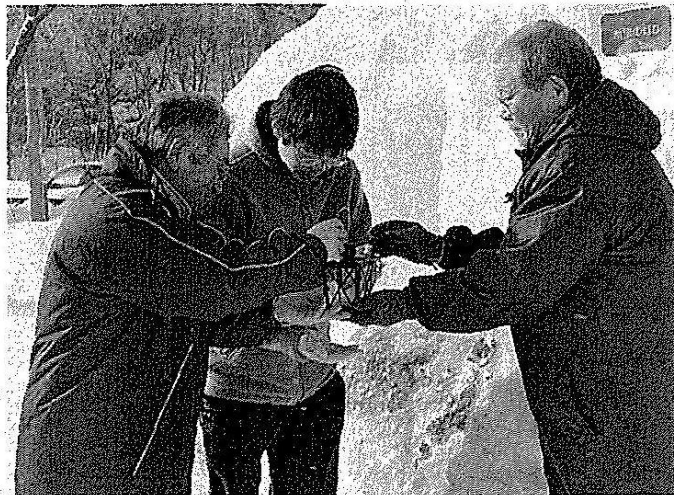
県内の大学生が企画した「雪まつり2012—絆」は11、12の両日、八幡平市館市の旧館市小校庭で開かれている。11日は陸前高田市の「3・11希望の灯（あか）り」から分灯した灯りを設置。住民らが地域おこし活動の前進を願った。

八幡平市で「雪まつり」

同日は岩手大、県立大、富士大、盛岡大の学生や地域住民ら約40人が参加。陸前高田市小友町の気仙大工左官伝承館にある「3・11希望の灯り」から10日に分灯したランタンが、3・11希望の灯り協議会の藤原直美会長（68）から館市地区振興協議会の山本清会長（62）に手渡された。

ランタンの灯は地球をかたどった雪像に置かれたランプに点灯。東日本大震災が発生した午後2

陸前高田から分灯



藤原直美会長（右）からランタンを受け取る山本清会長（左）

時46分に全員で黙とうを受け継いだ。藤原会長は「希望の灯りは生き残った。陸前高田市の「希望の灯り」は種火を阪神大震災で被災した神戸市から

絆主題に学生企画

多彩な行事
きょう本番

い」と願った。県立大社会福祉学部3年の堀切春花さんは「希望の灯りには、震災に限らずさまざまな問題に向き合い前に進むよう思いが込められていると聞いた。館市地区も一歩前進してほしいとの願いを込めた」と狙いを話す。山本会長は「若い人たちの発想がとても刺激になっている。住民が主体となって地域づくり活動を継続していきたい」と意気込む。12日は雪像作りや雪上パークゴルフのほか、雪

2012年2月12日

岩手日報 18面

八幡平市 館市 魅力MAP

学生による地域づくり活動in八幡平市



まんず、館市さ、ごっ!
「まんずは館市のまはりの鳥」

この「館市魅力MAP」は、「学生による地域づくり活動in八幡平市」(主催：八幡平市、いわて高等学校コンソーシアム、いわて未来づくり機構)による取り組みの1つで、数ヶ離れた都市地区を多くの方々に知ってもらい、地域住民と地域の外の人たちを「**館市LOVE**」で繋げよう!と考えることで作成しました。

いわて高等学校コンソーシアム構成大学の学生のべ36名(2011年度：岩手大学3名、岩手県立大学9名、富士大学2名、盛岡大学9名、2012年度：岩手大学4名、富士大学2名、盛岡大学7名)が、館市地区をくまなく歩き、地域の方々には「日常の風景」でも、

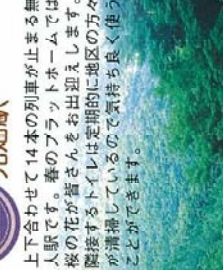
※注記
 地図上の位置はあくまでも目安で、実際と異なる場合がありますのでご了承ください。また、十分に整備されてはいない所も含まれており、準備をしながら進めようとしています。



製作：2011・12年度「学生による地域づくり活動in八幡平市」参加学生
 主催：八幡平市、いわて高等学校コンソーシアム、いわて未来づくり機構
 〒020-8530 岩手県盛岡市上田9-18-8 15F 未来づくり機構 盛岡研修会館(盛岡市庁舎内)
 TEL 019-621-6851



1 炭焼き小屋
 炭生産が主産業だったこの地区に、現在ある炭焼き小屋はここだけです。阿部さんが昔ながらの方法で炭焼きをしています。(私有地内のため見学は了解を得てからしてください。)



2 兄畑駅
 上下合わせて14本の列車が止まる無人駅です。春のプラットフォームでは桜の花が着きさんをお出迎えします。隣接するトイレは定期的に地区の方々が清掃しているので気持ち良く使うことができます。



3 米代川
 名前の由来は「タマフリ(とんぼ)喜書の伝説」からだと、日本海へと注ぐ川で、ガサガサりや川下りなどが楽しめます。



4 館市公民館
 館市地区の公民館。各種教室が開かれ、住民の重要な集いの場となっています。



5 旧館市小学校
 誓の思い出が詰まった小学校(統合により2004年閉校)。昔の校庭はパークゴルフ場に整備され、住民の社交場となっています。

6 お産の神(朝日山神社)・山の神
 300年の歴史があるこの神社。お産の神には、昔は他の地区からも妊婦さんが参拝に来たそう、沢山の人が形が供えられています。山の神には市の指定文化財の山神様の像が祀られています。(どちらも私有地内のため参拝は了解を得てからして下さい)



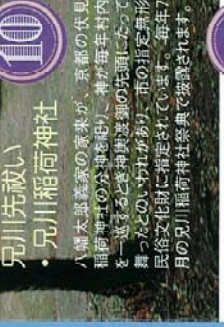
7 何太良神社
 「あたら神社」です。「なんと神社」ではありません。境内は見晴らしがよく、絶景ポイントです。



8 兄川先成い
 八幡太鼓家の家業が、京都の伏見稲荷神社の公御巡り、神が毎年村内を一巡するお神輿渡御の先頭にて舞ったといわれ、先頭が氏子たちにより、先頭文化財に指定されています。毎年7月の兄川稲荷神社祭典で演奏されます。



9 兄川稲荷神社
 兄川地区の神輿が祀られている神社です。先頭の神輿は、神輿が降りてくる場所、神輿の重った神輿が氏子たちに担がれ、兄川稲荷神社に運ばれます。



10 勇気の滝
 智慧の滝に比べると小ぶりですが、迫力は十分！智慧の滝まで行くにはちよつと...という方におすすめです。
※注記
 「勇気の滝」は学生のつみた連絡で、滝の本場の名前は分かりません。「勇気の滝」と聞いても場所の人は分からないかも知れませんのでご了承ください。



11 館市館跡
 この地区の名前の由来となった、敵の陣地を監視するために作られた館(城)跡です。鳥居をくぐり、しほく登ると八坂神社があり、その西側(兄川方面)に見える高台に館があったとすうです。館跡の周りの窪地はお堀の跡だとか...



12 佐藤商店
 兄川地区唯一のお店。清流釣りの遊泳券もこちらで購入できます。

八幡平市 銘市 魅力MAP

学生による地域づくり活動in八幡平市



注意 ①地図上の位置は、あくまでも目安で、実際と異なる場合があります。②道が十分に整備されていない場所もありますので、準備して訪れるようにしてください。③自然豊かな場所ですので、時期によってはアマやハチに十分注意してください。

氣比風穴
(氣ノ下風穴)
一年中、涼しい空気に包まれている場所です。まさに自然の神秘!

お産の神・山の神
佐比奈
山王様
山王様
山王様

智慧の滝
車を降りてから約2kmの山歩き
の先に地区一番の滝があります。
まさに「秘境」と呼ぶにふさわ
しい所です。滝までの道は起
伏があって、運動不足解消に
もってこい。滝のように流れる
汁も見ることができそうです。

祭日には、会場には立って
〇川神社まで歩いていける
風いながら進行する様子が見られる

別名「川」は、
湧き出る川は、
湧き出る川は、
湧き出る川は、

兄川
知る人ぞ知る清流溢りのメ
カです。地域の貴重な資
源ですので、並漁券の購入
やゴミの持ち帰り等マナーを守
って楽しんでください。

- 学生による地域づくり活動in八幡平市 過去の活動**
- 2010年度
 - 「クマ注風」など注風、看板及び地区掲示板の作製
 - 「雪まつり」の実施
 - 2011年度
 - 魅力MAP作り開始
 - 「雪まつり」の実施
 - 2012年度
 - 地区行事(米代川下り、兄川先読い)への参加
 - 氣比風穴への案内板作り 作製 ●魅力MAP作り
 - 「昔の遊び体験」実施

交通のご案内



- 自動車**
田山IC → 安代IC → 白沢IC → 兄川
- 列車**
田山駅 → 安代駅 → 白沢駅 → 兄川駅

©2012 美しい地域はCoop MAP「面白いMAP」で愛を注ぎます。 銘市魅力MAP

制作：2011.12年度「学生による地域づくり活動in八幡平市」参加学生(岩手大学、岩手県立大学、富士大学、盛岡大学)、八幡平市道市地区の皆さん

別紙10：「地域リーダー」像提言

平成 23 年 7 月 13 日

いわて高等教育コンソーシアム
運営委員会委員長
高畑 義人 様

いわて未来づくり機構「地域力を支える人材育成」作業部会
座長 後藤 尚人

いわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」 に係るリーダー像について（提言）

【経緯】

いわて高等教育コンソーシアム運営委員会の玉真之介委員長（当時）から、平成 22 年 6 月 17 日付で、本作業部会座長宛に、コンソーシアムで実施することとなる「地域リーダー育成プログラム」の具体化に資するため、岩手の地域社会を牽引して行くリーダー像と求められる能力や資質等について検討し、平成 22 年度末までに提言して欲しい旨、依頼があった。

本作業部会では、平成 22 年 6 月 28 日に開催した第 13 回作業部会会議において、上記依頼を受けとめ、本作業部会を通して「地域リーダー像」に関する勉強会を行い、年度末に提言を出すこととした。

勉強会は、県内各界のリーダーをお招きし、自身の活動を通して苦労した点や注意した点について、また、後進への助言や岩手を活性化するための視点などをお話し頂き、作業部会委員と意見交換する形で、以下のとおり 5 回行なわれた。

- 1) H22/08/02：産学官連携リーダー：岩瀬明（岩手大学理事・副学長）
- 2) H22/08/28：地方自治体首長：中村哲雄（前葛巻町長、中村牧場・中村家畜診療所所長）
- 3) H22/09/30：NPO 主宰：両川いずみ（NPO いわて子育てネット副理事長・事務局長）
- 4) H22/11/01：地方自治体・行政職リーダー：浅沼康揮（岩手県総務部人事統括課長）
- 5) H22/12/13：企業経営者：村井良隆（あさ開代表取締役社長）

平成 23 年 1 月 21 日の第 19 回作業部会会議で上記勉強会について総括し、各委員からの意見をもとに座長が提言の原案を作成して、年度内の第 20 回作業部会会議で取りまとめることとした。

その後、東日本大震災が勃発し、作業部会の活動は中断、未来づくり機構の在り方そのものも問い直されることとなり、提言の取りまとめを行う本作業部会の会議開催が遅れる事態となった。このような事情があるとはいえ、提言の取りまとめが大幅に遅れることになったことについては、関係各位へお詫びしたい。

以下につづく提言は、上記勉強会にゲストスピーカーとしてお越し頂いたリーダーの方々ならびに議論に参加頂いた委員の方々の見解をもとに作成されており、貴重なご意見を頂いた各位には謝意を表したい。

地域社会を牽引して行くリーダー像と求められる能力や資質について（提言）

I リーダー像

【多様なリーダー】

本作業部会では、当初より、「ある特定分野での「リーダー」像1つだけを挙げるのではなく、地域のリーダー、職場のリーダーなど、様々な場面で必要となるリーダーのスキル等を提言すること」（第13回作業部会メモ）として作業を進めてきた。それは、「地域社会を牽引して行くリーダー」といえども、多種多様なリーダー像が想定され、また、組織のトップはリーダーであろうが、リーダーはトップだけでなく各階層にも存在し、それぞれの場面に応じてリーダーの役割も多様だからである。

【リーダーになる過程】

リーダーになる過程は、選別方式で見れば、1) 選挙されてなる、2) 努力・奮闘してなる、3) 任命によってなる、という三つのタイプに区分されると言われている⁽¹⁾。

勉強会でお招きした産学官及びNPOのリーダーとの意見交換からは、リーダーとなる過程において、自身を牽引してくれた先導者との出会いや自身が置かれた境遇・環境がトリガーとして重要であったことが伺える。リーダーは、自ら進んでなるというよりは、潜在能力がある人にリーダーとしての役割が外部から要請されてなる場合が多いように思われる。

注(1): cf. アメリカ海軍協会『リーダーシップ: アメリカ海軍士官候補生読本』(1959)、武田文男・野中郁次郎 訳、生産性出版、1981、新装版2009、p.8

【地域社会を牽引して行くリーダー像】

多様なリーダーのタイプがあることや、リーダーが生まれる場合の外的要因の重要性を了解しつつ、本作業部会では「地域社会を牽引して行くリーダー」(地域リーダー)について、以下のように提案したい。

1. 地域社会に愛着を持ち、地域を牽引する情熱と活力を持ち合わせている人
2. 地域社会をよく知り、地域の将来展望を描ける人
3. 他の地域との関連において自らの地域をとらえる複眼的視野を持っている人
4. 自らの職務を超えて地域社会に貢献できる人
5. 年齢や地位にかかわらず、地域社会に溶け込み、地域社会を内側から牽引できる人
6. 地域の課題を把握し、改善策を立案・計画し、それを成し遂げることができる人
7. 地域が遭遇する想定外の事態にも迅速に対応し、素早い決断と行動ができる人
8. 職務権限によらず、組織の大小にかかわらず、組織をマネジメントできる人
9. リーダーシップはもとより、フォロワーシップも理解している人
10. フォロワーがリーダーになるための次世代育成⁽²⁾ができる人

注(2): 勝利する企業にはあらゆる階層にリーダーがいて、そのようにあらゆる階層にリーダーがいるのはトップリーダーがリーダーの育成を重視しているからだという「リーダーシップ・エンジン」の考え方をさらに深めて、組織としての「リーダーシップ・サイクル」の確立が次世代リーダーの育成には欠かせないという指摘がある。cf. ノール・M・ティシー&ナンシー・カードウェル『リーダーシップ・サイクル』(2002)、一條和生 訳、東洋経済新報者、2004

II リーダーに求められる能力と資質

先に示した「地域社会を牽引して行くリーダー像」の項目に対応するものとして、以下に各々の能力と資質及びそれらの修得可能性について言及する。

1. 地域への愛着・情熱と活動力

地域社会を牽引して行くためには、地域への思い、愛着、情熱が活動の原動力となる。

このような地域への熱い思いは、学習して修得するものではないが、地域住民でなくとも、何らかの形で地域社会への関わりを持つことで芽生え、その関わりが増すにつれて増大することがある。

2. 将来を見通す眼力

リーダーには必ず将来への展望、ビジョンが求められる。将来のあり得るべき姿を提示し、その実現に向けて人々を動かす力が問われるわけである。将来を見通す先見性を備えることで、将来ビジョンを語る事が可能になると考えられる。

この能力は、個人に備わる生得的な《感覚》ではなく、地域をよく知り、地域を取り巻く世界の動静（経済状況や国際情勢など）から予測し得る能力で、後天的に獲得することが可能な能力である。

3. 他者の目・複眼的視野

地域の課題や問題のみならず、地域の特色や豊かさは、往々にして地域住民には気がつかないことがある。地域を理解するには、地域を相対化する必要がある。自己を他者の目から見つめ直すように、地域を外から見直すことができるような複眼的視野を持つことが求められる。

岩手をよく知るには、岩手から一度離れて、外部の視線で岩手を見つめ直すことが効果的であろう。また、岩手以外の人々との交流を深め、他者の意見を知ることで岩手を相対化することはできる。

4. マルチタスク能力

職務上のリーダーシップを発揮するだけでなく、職務を超えて地域社会に貢献するには、職務と同時に異質な環境で異質な業務を遂行する必要がある。多様な仕事を的確にこなすためにも、マルチタスク能力が問われよう。

複数の案件を同時期にこなすことは、そのような境遇になれば誰もおのずと行っていることで、そのための特別な訓練を要することもないと思われるが、その能力を職務以外に向けられるかどうかは、さまざまな要因に起因すると思われる。

5. 幅広いコミュニケーション能力

どのようなリーダーであれ、単なるプレゼンテーション能力ではなく、異なる意見を持った人、異なる年代の人、あるいは外国人と折り合いをつけながら仕事を進めることができる能力が必要となる。ここには、自らの意見を的確に伝えることのできる能力、異なる意見を傾聴し・まとめる調整能力、ひいては外国語の運用能力などが含まれる。

こうした広義のコミュニケーション能力は、さまざまな共同作業を実践していく過程で培われであろう。

6. 課題の探究、問題点の把握、解決策の立案・計画・実行を成し遂げる能力

現状を調査し、問題点を見出し、改善策・解決策を立案・計画し、それを最後までやり遂げる能力がリーダーには求められる。課題探究、問題発見、企画・立案、計画、実行などの能力に加え、事業を完遂するにはその計画への情熱とリーダーとしての責任感が必要となる。

課題探究能力等は問題解決型のトレーニングを積むことで修得することができる。一方、情熱については、立案からプラン作りに関わる度合いに応じて、また、責任感については、リーダーとしてその事業を任せられることによって生じると思われる。

7. 危機管理能力と柔軟な思考

ここでは、想定外の事態に素早く対応し、情報を収集し、状況を把握し、決断して実行するといった一連の能力を想定している。緊急時にはリーダーに決断を求められるため、リーダーは常に対策を準備しておくことが肝要である。

災害や事故などが発生しても限られた資源で事業の継続を可能にする BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) を企業が策定しているように、平時から常に緊急時に備えておくことは可能であろう。また、情報収集能力は、情報源の他チャンネル化や有力なネットワークの確保に務めるなどで強化することができる。状況判断と決断力については経験に左右される度合いが大きそうである。

一方で、判断が経験に基づくとはいえ、過去の成功事例にとらわれて保守的になったり、現状に満足することなく、状況に応じて適切かつ柔軟に対応できる能力をリーダーは持ち合わせて欲しい。この能力は、イノベーションを生み出す重要なファクターともなる。

8. 組織のマネジメント能力とバランス感覚

組織をより良く動かすためにもマネジメント能力は欠かせない。マネジメント能力を発揮するためにも、リーダーは組織の全体像を把握する必要がある。現場を知らずして指示を出すだけでは組織は動かないし、近視眼的思考では、組織を機能させることはできない。

マネジメント能力の育成については、ドラッカー⁽³⁾をはじめ文献には事欠かない。ただし組織を把握するということは、そこに所属する構成員の把握であり、人間の把握にほかならない。構成員の個性を見極め、適材適所で構成員の能力を引き出すためにも、人間を見抜く洞察力と、人間を動かすためのバランス感覚を備えておきたい。

注(3): cf. ピーター・F・ドラッカー『マネジメント—課題、責任、実践』(1973)、上田惇生訳、ドラッカー名著集 13~15 (上中下)、ダイヤモンド社、2008

9. リーダーシップとフォロワーシップ

リーダーである以上は、リーダーシップを理解し、それを発揮する必要がある。

リーダーシップは先天的な才能であったり、体験的に身につけるものであるため教えることができないとの指摘は根強いが、「リーダーシップとは学習によって身につけられる、あるいは身につけるべきもの」⁽⁴⁾という見解も多い。

リーダーはまた、フォロワーシップについても十分理解しておく必要がある。リーダーになる前は誰でもフォロワーであるため、経験的にフォロワーを捉えることはできるが、信頼できるフォロワーを獲得するには人間関係の原則を学ぶ⁽⁵⁾ことが近道である。フォロワーの支持がなければリーダーシップを発揮することはできない。

リーダーにはさらに、周囲への配慮と、フォロワーへの気遣い、優しさ(時には毅然たる態度)が求められる。リーダーは自ら模範的に行動するだけでなく、フォロワーへの気遣いと

信頼、人間的優しさを備えておく必要がある。

注(4) : cf. シャロン・ダロツツ・パークス『リーダーシップは教えられる』(ハーバード・ケネディスクール講義)(2005)、中瀬英樹 訳、ランダムハウス講談社、2007年、p.3

注(5) : cf. D・カーネギー『人を動かす』(1936)、山口博 訳、創元社、新装版1982

10. 次世代育成能力

リーダーは教育者であらねばならない。組織が大きくなるにつれて、各階層でリーダーが必要になるが、それら次世代リーダーを育成するのもリーダーの重要な役割である。有能なリーダーには次世代リーダーを育成する能力が求められる。

この能力は、リーダーが次世代育成を重視するかしないかに左右されると考えられるが、次世代のことを気かけないリーダーには次世代育成能力がないとは言い切れない。その気になれば次世代を育成する能力が潜在的に備わっている場合もあろう。基本的に、リーダーに求められる他の能力や資質を備えているリーダーなら、次世代育成能力も備えているはずである。

III リーダー育成プログラムの実現に向けて

上記のリーダー像ならびにリーダーに求められる能力と資質は、地域を牽引して行くリーダーのいわば理想像であり、それら全ての能力及び資質がなければ地域リーダーとして認定しないという趣旨のものではない。

教育プログラムの実施にあたっては、想定されるリーダー像を念頭に講義や演習・実習等を配置して頂ければ幸いである。

なお、3月11日の東日本大震災以前と以後とでは、岩手の地域社会を牽引して行くリーダーの位置づけが変わっている。震災後のリーダーには、地域復興の牽引役としての役割が求められており、「地域リーダー育成プログラム」にも、復興を担うリーダーを育成する観点を加味して欲しい。

例えば、危機管理、防災、医療、都市の在り方、地域コミュニティー、ボランティア、組織論などを含む科目の開講や、地域復興に実践的にかかわる活動をプログラムに取り込むなど、復興を担う諸活動を通して、地域の牽引者たるリーダーの育成に取り組んで欲しい。

また、コンソーシアムでの人材育成は、学生が対象になることは当然だとしても、リーダーの育成という観点から、一般社会人向けのプログラムも構想し、一部の科目では在學生と社会人が共に受講・実践できるような工夫をされることが望ましい。

今回の震災は被害地域も被災者数もこれまでの自然災害とは桁外れのもので、今だ避難所生活を余儀なくされている方々も少なくない。まだまだ復旧・復興がその途についたばかりではあるが、このような非常時にこそ地域リーダーが強く求められている。プログラムの受講生は、カリキュラム内容のみならず、非常時において人々がどのように助け合い、どのように振る舞ったのかなど、震災そのものから多くを学び、貴重な教材とされたい。

いわて高等教育コンソーシアムの構成大学には多彩な学部があり、人材も豊富であることから、それらの大学が協力することで、多方面にかかわる復興を牽引する人材の育成は可能だと思われる。そうしたプログラムを実現することで、地域に根ざすリーダーが次々に輩出されることを祈念する。

【付言】

※「地域リーダー」という名称について

今回の検討依頼の内容からは逸脱しますので、以下は蛇足でしかありませんが、話題となった名称について言及しておきます。

- ❖ 「地域リーダー」という名称の意味は理解できるものの、ややもすると、『町内会のボスの存在』というイメージが先行する嫌いがある。産学人材育成パートナーシップ（オブザーバー：文部科学省、経済産業省）の経営・管理人材分科会が平成22年4月に発表した報告書には、「地域経済活性化人材」という用語が使われており、「地域活性化リーダー」というように、名称を具体化する方策も考えられる。
- ❖ また、内閣の新成長戦略に基づき、内閣官房長官を議長とする「グローバル人材育成推進会議」から、平成23年6月22日に「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ（案）」が出されており、そこで扱われているグローバル化に対応するための「グローバル人材」と比較すれば、「地域リーダー」という名称は、世界の動きに背を向け地域に固執した内向きの姿勢とも解釈されてしまう。
- ❖ 「グローバル人材」と差異化して「グローバルリーダー」という名称もあり得るが、「グローバル」の浸透度がまだ高くないことからすれば、場所の制約を外して、例えば「未来を切り開くリーダー」など、新たな視点で名称を考えることも一案であろう。
- ❖ さらに、「地域経済活性化人材」や「グローバル人材」に見られるように、「リーダー」という名称にこだわることなく、「～人材」と簡素化することも検討に値すると思われる。

平成 22 年 6 月 17 日

いわて未来づくり機構
第 4 作業部会座長 後藤 尚人 様

いわて高等教育コンソーシアム
運営委員会委員長 玉 真之介

地域リーダー像の検討について（依頼）

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手に足場を置く高等教育機関の共同事業体として、地域の中核を担う人材育成のための「地域リーダー育成プログラム」開発に取り組むこととしております。

このプログラムの開発にあたり、岩手の地域社会を牽引していくリーダー像と求められる能力や資質等について、各界の有識者の方から幅広く意見を伺う必要があると考えております。

貴作業部会は、産・学・官各界から幅広く委員を結集し、地域力を支える人材育成事業に取り組まれていることから、上記のリーダー像と能力・資質等に関する適切なお提言をいただけるものと確信し、下記のとおり依頼する次第です。

【依頼事項】

- * 岩手の地域社会を牽引していくリーダー像と求められる能力や資質等について（「地域リーダー」という表現にこだわるものではありません。）

【検討期限】

- * 平成 22 年度末日

【検討結果】

- * 文書でご報告をお願いします。（書式の指定はありません）

第1回「地域リーダー像」提言のための勉強会：まとめ

【依頼のポイント】

1. これまでの活動の概略（目的や活動実績）と特に苦労した点は何か
2. 「1.」の活動を振り返り、何を大切にしてきたか、何に注意を払ったか
3. 同じ道を志す若者に対し、助言するとすれば、何を伝えたいか
4. 岩手を元気にするためには、今、何が不足していると感じているか、どんな取り組みが必要と感じているか

日 時：平成22年度8月2日（月）15：00～16：10

場 所：アイーナキャンパス 学習室5

ゲスト：岩淵明 岩手大学理事（地域連携・国際連携担当）・副学長

リーダー像：産学官連携リーダー

参加者：17名（いわて高等教育コンソーシアム委員、ゲストスピーカー含む）

【概要】

岩淵明岩手大学理事より、氏が作成された資料「地域リーダー像への提言」に沿って、

1. これまでの活動：
 - 産官学連携を通して行ってきた7つの主要事業から、(1) ネットワークの形成、(2) 研究開発人材の養成、(3) 広範なものづくり人材の育成、の3点を例示に説明
 - (1) INSは「新撰組」？ ～ 岩手大学の印象 ← 人なし、物なし、金なし、自由度あり
 - 危機感を持った大学と県庁の有志の会：よそ者の眼&出来ることからすぐ行動へ
 - (2) 金型技術研究センター及び大学院金型・ casting工学専攻の設置
大学院設置 ～ 金型・ casting大学院の目標 ～ 大学院運営における地域との連携
 - 北上市との協定や経産省の支援により、外から内部を変える。大学院運営は企業も関わり、地域のニーズを反映させた。
 - (3) 岩手マイスター事業 ～ 地域再生人材創出「21世紀型ものづくり人材岩手マイスター育成」 → ノウハウや現象を分析・考察して論理的方法に活かす総合力
2. 大切にしてきたこと → 人のために、人のネットワークを重視
3. 同じ道を志す若者に対し、助言すると
 - 自らのコア（核）を持つこと → それが判断基準となり、自信となる
 - ネットワークの構築と維持 → 賛同する人が集まり、推進力となる
4. 岩手を元気にするために
 - 岩手の特徴・トピックを持つ
 - 経営者の技術に対する嗅覚、意識改革：「もらう」から「取る」へ

についての説明があった。

その後、参加者との意見交換に移り、以下のようなポイントがクローズアップされた。

【意見交換】

* 「よそ者の眼」について

- よそ者の利点として、地域を客観的に見ることができ、知り合いがいないのでネットワークを作ろうという志向が働く。
- 同じ地域に住み続けていると、その地域で小さくでき上がってしまう。
- 地域リーダーには多様な視点や価値感が必要となるため、外に出ることが重要
- 教育プログラムとしては、地域外へ出る研修や外部との交流を盛り込むことが肝要

* ネットワークについて

- 同じ危機感やモチベーションを共有することがネットワーク作りには大切
- ヒエラルキーは内向きだけれど、ネットワークは外へ外へと広がっていく
- インターネット上で ICT を活用したネットワーク作りも効果的であるが、バーチャルな結びつきではなく、リアルな人間関係が基本にある。
- ネットワークで繋がった同志を大切にする。

* 若者の反応について

- どの時代にも、やる気のある人はいるはずで、まずはそういった人を見出すこと。

* 岩手（地域）へのこだわりについて

- 特定の地域へのこだわりは特に必要ではない。地域リーダーは、どの地域へ行ってもそこの地域のリーダーとして活動できればいい。

* リーダーについて

- 本音で語ることが信頼関係を生む。

【まとめ】

第1回の勉強会として、今後のスタイルを確立する上でも貴重な会合となった。リーダーシップに関する文献ではあまり触れられていない「よそ者の眼」や「ネットワーク作り」について貴重なご意見を伺うことができた。

今後、毎月1回ペースで、参加者数にこだわることなく、リーダー像（分野）を変えながら実施したい。

第2回「地域リーダー像」提言のための勉強会：まとめ

【依頼のポイント】

1. これまでの活動の概略（目的や活動実績）と特に苦労した点は何か
2. 「1」の活動を振り返り、何を大切にしてきたか、何に注意を払ったか
3. 同じ道を志す若者に対し、助言するとすれば、何を伝えたいか
4. 岩手を元気にするためには、今、何が不足していると感じているか、どんな取り組みが必要と感じているか

日 時：平成22年度8月28日（土）14：30～16：00

場 所：岩手大学地域連携推進センター会議室

ゲスト：中村哲雄 中村牧場・中村家畜診療所所長（前葛巻町長）

リーダー像：地方自治体首長

参加者：12名（ゲストスピーカー含む）

【概要】

当日13時より第19回INS夏季講演会が行われ、中村氏が「持続可能なコミュニティづくり実践学」と題して、葛巻町長時代の取り組みについて講演された。勉強会ではその講演を受けて、準備頂いた資料「逆境が創造の原点 株式会社葛巻町の挑戦」及び「持続可能な地域づくりを目指して～ミルクとワインとクリーンエネルギーの町 葛巻町」は参照程度にとどめ、中村氏自身が受けた教育・人材育成について最初にご説明頂いた。

【人材育成について】

中村氏が葛巻町の職員となって間もない頃、当時の高橋吟太郎町長が、今後は酪農と林業に重点的に取り組むという方針を打ち出し、酪農では社団法人葛巻町畜産開発公社を設立して大規模な公共牧場経営に乗り出した。その際、役場職員の経営ではなく、小岩井農場から専務理事を招聘して、徹底的に民間の経営手法を取り入れると同時に、職員に民間の経営感覚を植え付けた。2代の専務理事に仕えた後、中村氏が3代目の専務理事となり、それらの経験・研鑽を活かして、後に中村氏は葛巻町長に選ばれた。

葛巻町が目指したもう一方の林業では、ワインの製造方法を学ぶため、鈴木重男氏（現葛巻町長）が当時の国立農業試験場へ派遣され、くずまきワインのブランド確立に尽力された。

中村氏も、鈴木氏も、当初から町長になるための帝王学を学んだというわけではなく、牧場経営などの「事業」を成功に導くために尽力し、ノウハウを積み上げたことが、後に自治体のトップとなるべくリーダーになり得たという。

成功のための方程式はないが、夢の実現に向けて、ぶれない熱意と情熱を持ち続けることの重要性を力説された。

その後、参加者との質疑応答に移り、以下のようなポイントがクローズアップされた。

【質疑応答】

*分かりやすいキーワードで表現するコツについて

→ 上に立つものは全体を把握できないといけない。例えば上位の有段者が初段を相手に戦うとすると、上位の有段者は相手の実力が初段クラスだと見抜くことができるが、初段からは相手が自分より上だとは分かっても、何段の有段者なのかは分からない。このような考えを畜産開発公社時代に学んだ。分かりやすい表現になっているのは、全体が見えてくると、適切なキーワードが浮かぶからではないか。

*リーダーとして人を動かす際の秘訣について

→ どのような組織に対しても、率直に話ができ自分の考えを理解してくれる人を3人は持ちたい。同時に現場の末端で仕事をしている人の心情を汲むことが重要。上に立つものは200人くらいの部下すべてを掌握できないといけない。

*若い世代への助言は

→ 人のまねをされていてはいけない。
→ 成功の種は現場にあるので、課題を解決するための起業家精神を持って欲しい。

*リーダーの育成について

→ 当初から持続可能なコミュニティづくりを意識して様々な事業を展開してきたわけではなく、事業を成功させることが結果的に持続可能性に繋がっている。同様に、人材育成についても、初めからリーダー育成というのではなく、個々の「事業」をやり遂げることを課せば、事業遂行のプロセスの中でリーダーシップが身につくのではないか。

*岩手県全体をみた時に思うことは

→ 人材育成がきちんとなされていない自治体が目につく。第三セクターの統合がなされるのは、それぞれの事業をやり遂げるための内部人材が欠如している場合が多い。次代を担う若い世代には、教育プログラムとして結果を出せるような仕事を与える必要がある。

*大学への注文

→ 潜在能力のある人が入学できないようなシステムになっていないかどうか検証してほしい。

【まとめ】

地方への交付税交付金が8年間で50億円も減額される時期に町長を務められ、その逆境をバネにしつつ、《株式会社》葛巻町を黒字経営にして活性化された手腕に基づく説得力のある講演と勉強会でのお話から、多くの示唆を受けることができた。

資本金ではなく、夢と情熱と実行力があれば地域は活性化できるという指摘に、リーダーのあるべき姿を示して頂いた。

第3回「地域リーダー像」提言のための勉強会：まとめ

【依頼のポイント】

1. これまでの活動の概略（目的や活動実績）と特に苦勞した点は何か
2. 「1.」の活動を振り返り、何を大切にしてきたか、何に注意を払ったか
3. 同じ道を志す若者に対し、助言するとすれば、何を伝えたいか
4. 岩手を元気にするためには、今、何が不足していると感じているか、どんな取り組みが必要と感じているか

日 時：平成22年度9月30日（木） 15:00～16:10

場 所：アイーナキャンパス 学習室5

ゲスト：両川いずみ NPO いわて子育てネット 副理事長・事務局長

リーダー像：NPO 主宰

参加者：12名（ゲストスピーカー含む）

【概要】

両川いずみ氏より、氏が作成された資料「幸せの種を蒔く人～地域リーダーの育成～」に沿って、上記依頼のポイントごとに以下のような説明があった。

【人材育成について】

1. これまでの活動の概略（目的や活動実績）と特に苦勞した点は何か
 - * テニス選手として活躍されていた時代：カルチャー主婦 → 45歳頃に転機：社会における居場所への意欲 → ケーブルテレビでの番組作りを通して有名人からオーラを受ける → やりたい仕事とのずれを認識 → 女性の自立のための活動、子供向け地域活動などを手がける → NPO法の制定とともに、岩手でのNPO作りに参画 → H13年にいわてNPOフォーラム21理事に就任 → H16年にいわて子育てネット理事就任、H17年副理事兼事務局長となる。
 - * いわて子育てネットでは、厚生労働省の緊急サポートネットワーク事業をはじめ、多くの委託事業、助成事業、自主事業を展開している。
 - * これまでの活動はどれも面白かったので、苦勞したとは思わない。ただし、これまでの活動は、自分を支えてくれる人がいたからできた：「支えてくれる人」の必要性
2. 「1.」の活動を振り返り、何を大切にしてきたか、何に注意を払ったか
 - * テニスでは勝つことでその味を覚えることができた。とことんやってみると完璧ではない自分を知り、かつ信じられる自分をつくることができる → 自分の得意・不得意が分かる。
 - * 自分より優れた人を仲間・スタッフに入れることが重要。
 - * 人にはリーダータイプとリーダーを支えるタイプがあり、それらは両輪となって機能する。
3. 同じ道を志す若者に対し、助言するとすれば、何を伝えたいか
 - * テニスは自分にとっては道場であった。 → どのような人になりたいのか、目の前の目的を自覚し、失敗を恐れずまずやってみることが重要 → やり遂げた時の達成感を大事にする。
 - * 集中力のもとにブレないこと → 安心感を持たせることができる
 - * 自分を支えてくれた人、自分の「運がいいこと」に感謝
4. 岩手を元気にするためには、今、何が不足していると感じているか、どんな取り組みが必要と感じているか
 - * 郷土への愛着、好奇心、人を支える価値観、幸せになろうという意識などが必要
 - * リーダーは幸せの種を蒔く人、蒔いた種を育てるのはリーダーを支える人

その後、参加者との意見交換に移り、以下のようなポイントがクローズアップされた。

【意見交換】

*活動を通して男女間の差について感じることは？

- 女性だからという点や、男社会だと感じることはある。が、まいいやと思っている。
- 男性社会では、男性は社会に適応するように訓練されている。が、女性はその点ではもう少し自由で、型にはまらない考え方ができる。もっとも、そのためには一人で瞑想することも必要であるが...

*自分のタイプを見極めることについて

- いろんなタイプのリーダー像があり、自分の得意な部分を出せばいい
- 何もないところに何かを作るタイプとか...
- 10年経つと風向きが変わる：やりたいことが変化することもある。
- 自分のタイプを見極め、リーダーになった時にどう振る舞うかというスキルも身につけておくことも重要。

*幸せについて

- 幸せになるためには何をしなければならないかを考える → 幸せには一人ではなれない
- みんなが幸せでなければ自分も幸せになれない。→ 活動すると自分も幸せ、相手も幸せになるという価値観が必要 → 活動が達成された時に幸せ感を知ることができる。

*リーダーとリーダーを支える仕組み

- リーダーがリーダとして活動できるためには、リーダーを支える応援団が必要。
- リーダーも完璧な人間ではない → リーダーにない能力を持つスタッフを集められるかどうか重要。

【まとめ】

NPOの諸活動を精力的に展開されてきたリーダーである両川氏からは、成功の秘訣のひとつとして、自分を見極めることや、リーダーを支えるスタッフ・応援団を持つことの重要性をご指摘頂いた。自分の「運がいいこと」に感謝されるとのことであったが、運を引き寄せるのは絶え間ない努力の結果であること、自身を支えてくれる応援団が集まるのも偶然ではなく、リーダーとしての吸引力があるからであろう。

第4回「地域リーダー像」提言のための勉強会：まとめ

【依頼のポイント】

1. 岩手県の職員を対象とした人材育成に関する取り組みのご紹介
2. 人事総括課長のお立場から県職員に求める資質等について
3. 職員に対する人材育成プログラムを計画する際に、プログラムごとに目的は異なると思われるが、全てのプログラムに共通する目的はあるのか、ある場合はその目的とは何か
4. 岩手を元気にするためには、今、何が不足していると感じているか、どんな取り組みが必要と感じているか

日時：平成22年度11月1日（月）15：00～16：20

場所：アイーナキャンパス 学習室5

ゲスト：浅沼康揮 岩手県総務部人事統括課長

リーダー像：地方自治体・行政職リーダー

参加者：12名（ゲストスピーカー含む）

【概要】

浅沼康揮氏より、氏が作成された資料「想いを形に 地域を元気に ～県の人材育成と私の想い『すべては光る』～」及び「『人的資源の価値を高める組織のあり方』の提案」（地域振興部・県土整備部 H20.2.19）に沿って、以下のような説明があった。

【県職員の育成等について】

1～2. 岩手県の組織と職員定数、その推移

*平成10年以降職員数は減少している。知事部局では、平成15年の5,000人規模が、平成22年では現員で4,500人程になっており、業務の効率化が求められている。

3. 職員育成ビジョン（H21.3）

*組織のパフォーマンスを向上するため、人材育成研修の再構築、職員の自己実現の支援強化、責任ある行動の促進、成果重視の見直し等を行っている。

4. 職員のモチベーション向上

*職員の資質やマネジメント能力の危機意識から、「人的資源を高める組織のあり方」の提案を行う。

→組織面：人材育成を組織のミッションとし、部下育成の基本スキームを構築

→モチベーション：職員の自己実現を尊重して能力を伸ばさせる風土作り、現場主義を徹底して県民の声を肌で感じる機会の増加、昇任基準の明示、業務の見える化

5. これまでの多様な県職員歴

6～8. 想いを形にする

*現場の視点で：熱い想い → 実際の形にする → 地域が動き → 地域が元気になる

*前向きにチャレンジ精神で、シンプルに、笑顔を絶やさず、アンテナを高くて、「すべては光る」（←誰にでも伸ばすことのできる長所がある）が人材育成の基本

その後、参加者との意見交換に移り、以下のようなポイントがクローズアップされた。

【意見交換】

＊県職員の人材育成は、各職場を周りながらジェネラリストを育成しているようだが...

- 事務系はその傾向があるが、技術系はスペシャリストとしての専門性が高い
- もっとも、技術系でもジェネラリストになることもあり、両者とも必要であろう
- ジェネラリストしても、回る職場は概ね7～8ヶ所くらい

＊職員の意欲やマネジメント能力などについて

- 企画室のような部所であれば、職員は意見を出しやすいであろうが、そうではない部所については、担当の上司が部下の能力を伸ばすように向かわせる必要がある。
- 上司は部下の個性まで見抜いて全体をマネジメントする

＊県庁の職場の雰囲気は自由に言いたいことが言える場となっているか

- 職員に話せと言ってもなかなか話してもらえないこともあるので、職員が県民と接する場や機会を作ることで、いろんな意見を聴きかつ自らの意見も持てるようになる。

＊飲み会の機会が減ってきているということは

- このご時世なので、飲み会の回数は減ってきているようだ。各職場での雰囲気作りは上司によるところも大きい。

＊職員の資質向上についてはどのような研修がなされているか

- 職位や職種別に多様な研修プログラムを実施している。
- 専門職用は研修の目的が明確で、事務系・総合職系には、ファシリテーション・スキルやマネジメント・スキルなどの研修も実施している。
- そのような研修プログラム以外に、パワフルな県民と一緒に仕事をしたりすることで、能力が伸びることが多いように思える。地域に育てて頂くという部分が多い

＊コンソでは地域リーダ育成プログラムを構想しているが、求められる人材像は

- 地域の人々の熱い思いをサポートできる人材が必要

＊岩手の活性化のために必要なのは

- 人と人のネットワーク、きづなが重要だと思われる。

【まとめ】

人材育成については、職員のモチベーションを向上させるための組織作りに取り組み、組織のミッションとして、役職に応じた役割の明確化、部下育成方針の設定、評価制度の見直しなど、人的資源の価値を高める組織作りのプロセスが理解できた。

加えて、県民と接することで刺激を受けて成長することの重要性や、後進の指導にあたっては、「すべては光る」（詩作：坂村真民）に込められた部下に対する思いやりと上司の心得を示して頂いた。

第5回「地域リーダー像」提言のための勉強会：まとめ

【依頼のポイント】

1. これまでの活動の概略（目的や活動実績）と特に苦労した点は何か
2. 「1」の活動を振り返り、何を大切にしてきたか、何に注意を払ったか
3. 同じ道を志す若者に対し、助言するとすれば、何を伝えたいか
4. 岩手を元気にするためには、今、何が不足していると感じているか、どんな取り組みが必要と感じているか

日時：平成22年度12月13日（月）15：00～16：30

場所：アイーナキャンパス 学習室5

ゲスト：村井良隆 あさ開代表取締役社長

リーダー像：企業経営者

参加者：8名（ゲストスピーカー含む）

【概要】

村井良隆氏より、氏が作成された資料「伝統と革新」に沿って、以下のような説明があった。

1. 社長になる経緯について
 - * 村井家のルーツは370年ほど前の近江商人に遡る。明治4年（1871年）に、7代目が新しい時代の幕開けに「あさ開」という名で酒屋を始め、良隆氏で5代目となる。
 - * 1995年に37歳で社長となり、当時の年商は17～18億円、2年目で20億となる。
2. 日本酒の現状
 - * ここ30年で日本酒の消費量は3分の1になっており、社長就任3年目から業績は悪化した。当初はこんな時代（市場が半減した頃）に...と悩んだが、京セラの稲盛和夫氏が主宰する「盛和塾」に参加し、稲盛氏から教えを受け、奮起する。
 - * 日本酒の市場調査を実施する。
3. 日本経営品質賞との出会い
 - * 日本経営品質賞（JQA：Japan Quality Award）について勉強を始めた頃、あなたの会社は盛岡に必要ですか」と問われ、地域にとって必要な会社になることの必要性を実感する。（後に、岩手県経営品質協議会を設立する。）
4. 私たちのお客様は誰??
 - * 社員全員で討論し、それまで、卸業者や酒屋を相手に商売をしていたが、実際にお酒を飲んでくれる人が「客」であるとさとする。
 - * 新しいビジネスモデルの確立
→ 酒という商品を、「もの」から「こと」で捉え、「すべてのお客様の食の場における『喜び』『楽しみ』『くつろぎ』に貢献いたします」という経営理念を確立した。
5. 企業30年説：創造的破壊
 - * 15年前から海外マーケットの開拓に着手し、ニューヨークでの市場を確保している。
 - * 新酒の販売時期なども考慮し、四季に応じた酒を造り、市場を開拓する。
 - * 顧客にICE（Infomation, Communication, Education）活動をして、3万人が年間5万円買ってくれば、年商15億円で経営が成り立つ。
 - * 岩手県産の米でお酒を造り、県外、海外で販売し、地域へ還元する：あさ開の地域貢献

その後、参加者との意見交換に移り、以下のようなポイントがクローズアップされた。

【意見交換】

*若くして社長となられ、社員との一体感はどうのようにして作られたのか...

- 社長は、社員と密にかかわることが基本。
- 社員の評価制度をどうするかは重要で、成果主義を取り入れたら有能な社員ほど目的設定が高邁でうまく行かない。みんなが納得できるような評価はできないので、社員の評価はしないことにした。
- 社員は全員同じ重みで、全員一丸となって目標を持つ方がいい。 → 全員評価主義
- ただし、仕事を掛け持っている社員にはそれなりの報酬を出している。

*経営者一家に生れたことで、受けた影響とかは？

- 後を継ぐのはいやだった。が、大学には行けということで、東京農大に入った。当時、酒造学科には、200人中50人くらいは後継者が潜り込んでいた。彼らが持ってくる酒を飲み比べることで、この業界を認めるようになった。
- 自分のリーダー像は、おじいさん達の姿かもしれない。

*社長になった時に、会長（父親）は会社にあまり出てこない？

- いっさい来なかった。会社を受け継いだ時には、自分より年上の社員もいたが...
- 会長は来ないので、稲盛氏の理念（社員の物心両面の幸せを追求する）を実践してきた。
- その意味では、稲盛氏が自分のリーダー像になっている。
- 社長になった後は会長からは何も指導を受けていないが、社長になるまでは、毎年のように職場・職種を変われという辞令を受けたので、仕事の全体像が分かるようになった。

*ステラモンテなど直営レストランも経営されているが...

- 社長になった頃は20億円の売り上げがあったものの、粗利が32%くらいで68%が原価だった。それが今では、自前のレストランや、お酒の直売所等を持つことで、売り上げは14億円くらいだが、粗利が46%くらいまでにあがっているので、利益は6~7億ということで、以前と変わらない。このように、効率良く経営することができている。

*グローバル化時代の世の中で、日本酒は白ワインに対抗できそうだけれど...

- アメリカで10年間は暴れてみようと考え、12の酒造会社が参加し、各社500万円の出費で計6000万を資本に活動を始めた。スタート8年目で事業は黒字になった。その秘訣は、現場で顧客に日本酒についてきちんと説明することだと思う。
- 現在12社中、7社がアメリカでの販売を続けている。

*これからの岩手に必要なのは？

- 第1次産業を変える必要がある。消費者教育をもっとやって、岩手のいいものを買うようにならなければ...
- 今後は世界的に食料や水が不足する時代がやって来る。その時、第1次産業は岩手にとって重要な戦略となり得る。

【まとめ】

若くして社長となられ、これまで企業・業界を牽引してこられたバイタリティに満ちたお話を伺うことができた。実践に裏打ちされた話し方には、迫力がある。先代から会社を引き継ぎ、それをさらに発展させねばという重圧を跳ね返す力は、ただの跡取りからは生れない。

別紙11：自己実現支援プログラム 実施要項等

高校生を対象とした自己実現支援プログラム 「復興とともに歩む私たちの未来」 実施要項

本プログラムは、被災地の復興を支え、推進する人材の育成を目的に、被災地の高校生を対象に、起業支援を行っている団体による講演、被災地の中小企業経営者や自治体職員等との懇談等により、地域と自分の将来について考える機会を提供することでプログラム参加者の将来への不安を軽減して、早期に目標を定めることができるように支援するもので、加えて雇用のミスマッチ等の軽減を意図している。

また、被災地で活躍する経営者や自治体職員等と地域の復興をテーマに意見を交わすことで、地域への愛着を深め、復興を支える若手人材を育成することを目的とする。

実施期間

平成24年8月28日（火）～平成25年3月31日（日）

実施対象

岩手県立山田高等学校2年生（76名）

実施内容

起業支援を行うNPO法人代表理事による講演
山田町及び周辺市町村の企業経営者、自治体職員、医療関係者等とのグループワーク
文化祭での展示・発表及び個人レポート作成

実施スケジュール

第1回 8月28日（火）13：45～

特定非営利活動法人 edge 代表理事 田村太郎 氏による講演・質疑応答(100分)

講師：特定非営利活動法人 edge 代表理事 田村太郎 氏

第2回 9月5日（水）13：45～

山田町及び周辺市町村の企業経営者等の講演及びグループワーク1回目（100分）

講師：株式会社うちむら家具 代表取締役社長 内村 健太郎 氏

特定非営利活動法人いわて連携復興センター 事務局長 葛巻 徹 氏

岩手県沿岸広域振興局産業振興課 主査 佐々木 毅 氏

岩手県沿岸広域振興局産業振興課 主査 北柝 玲子 氏

岩手県沿岸広域振興局産業振興課 主任 阿部 芳肇（みちとし） 氏

第3回 9月19日（水）13：45～

山田町及び周辺市町村の企業経営者等の講演及びグループワーク2回目（100分）

講師：株式会社千田精密工業 取締役 千田 ゆきえ 氏

岩手県立宮古高等看護学院 副学院長 富谷 千秋 氏

株式会社川石水産 代表取締役社長 川石 睦 氏

岩手アカモク生産協同組合 代表理事組合長 高橋 清隆 氏

三陸味処三五十 大杉 繁雄 氏

第4回 9月26日(水) 13:45～

山田町及び周辺市町村の企業経営者等の講演及びグループワーク3回目(100分)

講師: アグリ管理士(花卉・野菜農家) 佐々木 孝之 氏

株式会社エフビー 代表取締役会長 田鎖 巖 氏

復興庁岩手復興局 参事官補佐 渡部 剛士 氏

復興庁岩手復興局 参事官補佐 菊池 信太郎 氏

漁業者(カキ、ホタテ養殖) 上林 實 氏

漁業者(カキ、ホタテ養殖) 白野 貴 氏

第5回 10月10日(水) 13:45～

文化祭での展示発表に向けたまとめ方指導(100分)

講師: 特定非営利法人 edge 代表理事 田村太郎 氏

第6回 10月12日(金)、13日(土)

文化祭での展示発表

第7回 10月22日(月) 14:45～

山田町の復興計画について(50分)

講師: 山田町復興推進課

第8回 11月 7日(水) 14:45～

山田町の医療体制について(50分)

講師: 山田町健康福祉課

第9回 12月11日(火) 13:45～

個人レポート作成指導1回目(100分)

講師: 特定非営利法人 edge 代表理事 田村太郎 氏

第10回 12月18日(火) 13:45～

個人レポート作成指導2回目(100分)

講師: 信幸プロテック株式会社代表取締役社長 村松幸雄 氏

1月～3月 個人レポート提出・レポート文集作成

主催

岩手県立山田高等学校、いわて未来づくり機構、岩手大学釜石サテライト

共催

特定非営利法人 edge、岩手県中小企業家同友会

問い合わせ先

岩手県立山田高等学校 副校長 瀬川ひとみ

tel: 0193-82-2164 fax: 0193-81-2055

いわて未来づくり機構「地域力を支える人材育成」作業部会事務局

岩手大学研究交流部研究協力課 八重樫喜陽

tel: 019-621-6851 fax: 019-621-6995

高校で復興担う人材育成講座



津波で大きな被害を受けた山田町で、高校生を対象に今後の復興を担う人材を育成する講座が開かれました。

この講座は、県内の産官学のメンバーでつくる「いわて未来づくり機構」が、今後の復興を担う若い世代の人材を育てようと8月から山田町の県立山田高校をモデル校に開いているものです。

5日は、生徒70人あまりが参加し、復興支援にたずさわったNPOの関係者などが講演し、この中で、盛岡市に本社のある家具店の社長は、被災した宮古市の店舗を使って支援物資の提供を行ったエピソードなどを紹介しました。

その後、生徒たちは、グループ討論を行い、「復興を外部の力に依存している状況で、もっと地域住民が動かなければならない」とか、「卒業後に就く仕事と地域の復興とを関連づけていきたい」といった意見を発表しました。

講座に参加した2年生の赤瀬満輝さんは、「少しずつ復興しているが、まだ不便なところがあり、今後、自分たちでできることをやっていきたい」と話していました。「いわて未来づくり機構」に携わっている岩手大学の後藤尚人教授は、「生徒には、山田町の可能性を見つけ、復興を支えることができる人材になってほしい」と話していました。

生徒は、今後も講座を受け、来年の春までに町の復興について自分たちで考えたプランをとりまとめることにしています。

09月06日 09時01分

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved. 許可なく転載することを禁じます。

復興とともに歩む 私たちの未来

高校生を対象とした自己実現支援プログラム



岩手県立山田高等学校2学年

平成24年度 事業実績報告(案)

「いわて未来づくり機構」の設立5年度目である平成24年度においては、機構の第2フェーズ(H24～H26)のスタートの年と位置付け、オール岩手による復興と未来づくりに取り組んでいくこととし、部会活動をはじめとした各種活動を展開した。

事業内容

(1) 総会の開催

開催日：平成24年7月13日(金)

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

内 容：ア 平成23年度事業報告(案)／平成24年度事業計画(案)

イ 「いわての復興と未来づくりに向けた共同宣言」採択

ウ 講演「震災復興と未来づくり～阿部千一に見る震災復興～」

講師 梅原 愛雄氏

参加者：約120名

(2) ラウンドテーブルの開催

① 第1回ラウンドテーブル

開催日：平成24年7月13日(金)

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

内 容：機構の活動方針等に係る意見交換等

参加者：約90名

② 第2回ラウンドテーブル

開催日：平成25年2月9日(土)

場 所：岩手県立大学宮古短期大学部

内 容：ア 部会報告

イ 東北未来創造イニシアティブの取組に係る意見交換等

参加者：約50名

その他：ラウンドテーブル終了後、東北未来創造イニシアティブの推進について記者発表を実施

(3) 復興フォーラムの開催(岩手県と共催)

開催日：平成25年2月9日(土) ※ラウンドテーブル後に開催

場 所：岩手県立大学宮古短期大学部

内 容：ア 講演「人を助けるすんごい仕組み」

講師 西條 剛央氏

イ パネルディスカッション「復興3年目に向けて」

ウ 復興分野別情報交換会

参加者：約200名

(4) 企画委員会の開催

活動の企画・調整を担う組織として、平成23年度に設置した。平成24年度にあっては、委員会を4回開催した。

(5) 作業部会の開催

震災により設置が1年延期されていた観光作業部会が活動を開始し、全5部会が、復興を中心テーマとして活動を行った。なお、第4作業部会については、当初の予定通り、設置から5年が経過した平成24年度をもって活動を終了した。

部会名(担当機関)	平成24年度の主な活動実績
第2作業部会 (岩手大学)	<ul style="list-style-type: none">・部会関係組織の実施する復興支援活動等のHP掲載・被災企業見学及び意見交換・部会関係組織の復興関係の取組に係る情報共有
第4作業部会 (岩手大学)	<ul style="list-style-type: none">・久慈市において地域リーダー像を市民とともに考えるイベント「Kuji cafe 2012」を実施・人材育成データベースを継続運用・県立山田高校において「高校生を対象とした自己実現プログラム」を実施
第5作業部会 (岩手県立大学)	<ul style="list-style-type: none">・釜石市鶴住居仮設住宅団地において「見守りを核とするICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」プロジェクトを実施・県立大学公開講座「医療・福祉の情報連携とコミュニティづくり」を共催
公募型復興企画推進作業部会 (岩手県立大学)	<ul style="list-style-type: none">・いわて復興支援ポータルサイト「いわて三陸 復興のかけ橋」を中心としたマッチングを実施（企画提案型11件提案、8件受入。ニーズ型127件要請・提案、113件受入）・ワークショップを2回開催（大槌町、宮古市）
観光作業部会 (岩手県商工会議所連合会)	<ul style="list-style-type: none">・「コンベンション誘致による復興支援」「ポストDCを見据えた観光振興」「県北観光の振興」等に係る意見交換・講演会「観光立国の推進について」を開催

平成25年度いわて未来づくり機構活動方針（案）

I 活動方針

- 1 平成25年度は、機構の第2フェーズ（概ねH24～H26）の中間年であり、復興を加速する年でもあることから、機構としての復興に関する取組をさらに充実させるとともに、成果と実績をあげることに重点を置いて取り組む。
- 2 機構の活動内容の周知を図り事業の実効性を高めるため、引き続き積極的な情報発信を行う。

II 活動計画

1 機構及び各会員が取り組む県民運動（平成24年7月の共同宣言に基づいた取組）

(1) 震災復興に向けた活動の推進

県民総参加による復興への動きを推進し、復興を加速させていく。

- ① 復興支援ポータルサイト「**いわて三陸 復興のかけ橋**」を中心とした情報発信・マッチングの促進・連携体制の構築
- ② 経済同友会などと共に、人づくり・街づくり・産業づくりに取り組む「**東北未来創造イニシアティブ**」の推進
- ③ **復興教育**をテーマとした新部会の創設と実効性のある取組の推進

(2) いわての復興の象徴であり希望あふれる未来の実現に向けた活動の推進

復興の象徴となる取組を後押しすることで、復興とその先の希望あふれる未来の実現を図る。

- ① **国際リニアコライダー（ILC）**の東北誘致に向けた県民意識の盛り上げ、国内候補地決定後の研究施設とその周辺環境の整備など、受入体制の充実
- ② **2016 希望郷いわて国体**の開催に向けた県民意識の盛り上げ、募金活動・協賛活動への協力や関連イベント等への積極的な参加
- ③ **いわて三陸ジオパーク**認定に向けた県民意識の醸成、ジオパークに関する周知啓発や三陸復興国立公園の指定と連動した復興・地域おこしの取組

2 具体の課題解決のための各部会の活動

各作業部会は、いわての復興と未来づくりに向け、緊急かつ重要な課題に対応するための目に見える活動を行い、**具体の成果を出していくことを強く意識**して当該成果をラウンドテーブル、会員及び県民にフィードバックする。

部会名【担当機関】	平成 25 年度の主な活動計画・目標等
東北未来創造イニシアティブ作業部会 【岩手銀行】	・人材育成道場の開設及び円滑な運営
産業復興作業部会 【岩手大学】	・H24 策定のアクションプランの推進 ・沿岸地域の企業訪問を行い、支援内容に関し要望調査を実施 ・コーディネータの連携体制の構築
医療福祉体制作業部会 【岩手県立大学】	・研究会の開催(月 1 ～ 2 回) ・講演会・研修会の開催 ・仮設住宅及び復興公営住宅等の孤立死、自殺の防止に係る取組体制の構築
かけ橋作業部会 【岩手県】	・マッチングの促進 ・復興関連情報の発信 ・復興支援ネットワークの強化
観光作業部会 【岩手県商工会議所連合会】	・ILC 誘致の実現 ・花巻空港の台湾定期便就航の実現 ・「あまちゃん」を利用した観光の推進
(仮称) 復興教育作業部会	・「いわての復興教育プログラム」の推進を支援

3 積極的な情報発信

機構の活動を積極的に発信することで、活動のより効果的な展開を図る。

- ① 会員団体の総会等を利用した団体構成員等に対する機構の取組内容の周知
- ② 機構だよりの充実（年 4 回の発行）、電子メール等を利用した会員向け情報提供（随時）の強化
- ③ 機構HP（岩手のイイモノ紹介など概ね隔月更新）による、一般向けの情報発信の強化
- ④ 会員、構成団体HPとの相互リンク等による、露出の拡大

Ⅲ スケジュール

主なスケジュール	概要（案）
<p>○第1回ラウンドテーブル 日時：6/24(月)14:30～15:30 会場：ホテルメトロポリタンNW 司会：(岩大)岩淵副学長</p> <p>○総会・交流会 日時：(総会)6/24(月)15:40～17:00 (交流会) 17:15～19:00 会場：ホテルメトロポリタンNW</p>	<ul style="list-style-type: none">・25年度の活動方針についての協議・新部会(復興教育)の設置についての協議・東北未来創造イニシアティブの進捗状況報告・24年度実績報告、25年度事業計画の審議・ILC誘致に係る経過報告、機構としての決議・講演
<p>○第2回ラウンドテーブル 日時：10月下旬 会場：岩手大学(仮) 司会：(県)中村部長</p>	<ul style="list-style-type: none">・具体の課題(国体・ILC・ジオパーク・ものづくりビジョンなど)に対するディスカッション・活動内容の確認、修整、追加等
<p>○第3回ラウンドテーブル 日時：1月下旬 会場：岩手銀行(仮) 司会：(岩銀)斎藤専務</p>	<ul style="list-style-type: none">・活動内容の確認、総括・次年度の活動に向けた提言

国際リニアコライダー（ILC）の東北誘致を求める決議（案）

国際リニアコライダー（ILC）計画は、質量の起源とされるヒッグス粒子の詳細な性質解明など、宇宙誕生の謎を探求しようとする、世界最高・最先端のビッグプロジェクトである。

ILCの立地により、その地域には世界各国から第一線の優秀な人材と技術が集う「国際学術研究都市」が形成されることが考えられる。

これは、震災から立ち上がろうとするいわてにとって、単に震災前の状態に戻すのではなく、より豊かな地域社会を実現していくための、大きな夢となり確かな希望となるものである。

東北の北上山地には、震災の影響を全く受けることのなかった50Kmにも亘る強固な花崗岩帯が存在し、地質調査においても活断層がないことが判明している。まさにILCの適地である。

私たちは、復興の象徴となるILC東北誘致と、復興の先の希望あふれる未来の実現に向けた取組を、産学官、共に手を携え、進めていく。

いわて未来づくり機構は、オール岩手の力を結集し、総力を挙げてILC計画の実現に取り組んでいくことをここに宣言するとともに、北上山地が科学的技術的評価により国内候補地として選定されたあかつきには、国家プロジェクトとして、東北へのILC誘致が強力に推進されることを、強く要望する。

上記のとおり決議する。

平成 25 年 6 月 24 日

いわて未来づくり機構